



Qlik Senseでのコラボレーション

Qlik Sense®

May 2025

Copyright © 1993-2025 QlikTech International AB. All rights reserved.

1 本書について	5
2 データストーリーテリングと洞察の共有	6
2.1 ストーリー	6
2.2 スナップショット	6
2.3 ライブデータシート	7
2.4 スナップショットを使用したストーリーのインサイトの収集	7
スナップショットの取得	8
スナップショットの表示	8
注釈の編集	8
スナップショットの削除	9
2.5 ストーリーの構築	10
ストーリーを用いた作業	10
スライドでの作業	10
ストーリーを用いた作業	10
スライドでの作業	14
2.6 説得力のあるストーリーの作成	19
強調の追加	19
テキストと図形を使用したスタイル	21
スライドへのブックマークの追加	24
スライドへの画像の追加	24
スライドへのリンクの追加	25
スナップショットの外観の変更	26
2.7 ストーリーのプレゼンテーション	28
再生の開始	28
データポイント情報の表示	29
ライブデータシートを調整する	29
ストーリーのダウンロード	29
再生の終了	29
スナップショットの生データへのアクセス	29
スライドからシートへのアクセス	30
ライブデータシートでの選択	30
2.8 トラブルシューティング - データストーリーテリングの使用	31
ストーリーを編集できません	31
シートが見つからない	32
スナップショットの外観を変更できない	32
スナップショットを取得できない	32
ストーリーでスライドの順序を変更できない	32
スナップショット内のデータがビジュアライゼーション内に存在しない	33
3 公開	34
3.1 インサイトの配布	34
3.2 Qlik Sense Enterprise ストリームへの公開	35
ストリーム	35
シートとストーリー	36
ブックマーク	38
アプリの操作	38
ハブからのアプリの公開	39
ハブからのアプリの再公開	40

アプリのプロパティの管理	41
シートの公開	41
シートの公開中止	42
アプリの公開シートへのシートの追加	42
アプリの公開シートからのシートの削除	43
ストーリーの公開	43
ストーリーの公開中止	44
アプリの公開ストーリーへのストーリーの追加	44
アプリの公開ストーリーからのストーリーの削除	44
ブックマークの公開	45
ブックマークの公開を取り消す	45
公開済みアプリ内におけるブックマークへのリンクのコピー	46
3.3 Qlik Sense Client-Managed モバイル用 Qlik Sense Enterprise ストリームへの公開	46
3.4 Qlik Sense Enterprise on Windows から他のハブへの公開	47
段階アプリ	47
タグ	47
ストリームとタグ	47
タグ付きのクラウドハブへのアプリの公開	48
3.5 Qlik Sense プラットフォーム間での公開	49
3.6 Qlik Sense の Qlik NPrinting レポート	50
制限事項	50
Qlik NPrinting レポートを Qlik Sense に配布する	50
Qlik NPrinting 内の Qlik Sense アプリに接続する	51
3.7 Qlik Sense 内の QlikView ドキュメント	52
要件	52
Qlik Sense ハブでの QlikView ドキュメントへのリンクの公開	53
4 ダウンロードと印刷	54
4.1 ビジュアライゼーションからのデータのダウンロード	54
テーブルからのデータのダウンロード	54
4.2 シートのダウンロード	55
アスペクト比について	55
シートのダウンロード	56
制限事項	56
4.3 ビジュアライゼーションのダウンロード	57
デスクトップデバイスからのビジュアライゼーションのダウンロード	57
モバイルデバイスからのビジュアライゼーションのダウンロード	58
制限事項	59
4.4 ストーリーのダウンロード	59
PowerPoint のプレゼンテーションとしてダウンロード	59
PDF としてダウンロード	60
制限事項	61
4.5 トラブルシューティング - ダウンロード	61
匿名ユーザーがアプリデータをダウンロードできない	61
ビジュアライゼーションを画像としてダウンロードできません	62
PDF ファイルに空白文字が含まれる	62
シートをダウンロードしたが、データビューテーブルがビジュアライゼーションに戻った	63

1 本書について

このガイドでは、他のユーザーがコンテンツを使用できるように、データストーリーテリング、公開、およびエクスポートと印刷などを行う手順を紹介します。

Qlik Sense は、コラボレーションを念頭に置いて開発され、共通理解の作成に役立つツールを提供することで、意思決定を支援して他のユーザーに影響を与えます。

本書は Qlik Sense のオンラインヘルプをもとに作成されています。オフラインでの情報入手や印刷の便宜を図った簡易版のため、すべての情報が掲載されているわけではありません。

help.qlik.com/sense では、オンラインヘルプ、付加的なガイド、その他多くのリソースをご提供しております。

2 データストーリーテリングと洞察の共有

データストーリーテリングを使用すると、ディスカッションのサブテーマとして、またはメイントピックとして、データからのインサイトを他の人と共有することができます。

データストーリーテリングの目的は、データディスカバリーをストーリーにすることにあります。重要な要素を強調すると説得力のあるストーリーを構築でき、関係者の意思決定に役立ちます。

データストーリーテリングは、レポートやプレゼンテーション、予備解析などのテクニックを組み合わせ、作成やコラボレーションを可能にします。発見したデータのスナップショットを撮り、スライドで構成されるストーリーに使用できます。スナップショットにはさまざまな効果を適用できます。これにより、データからのインサイトとしてオーディエンスに注目して欲しいものを強調できます。

ストーリーテリング中に、スナップショットのソースに切り替えてライブデータを確認し、質問に回答することができます。これにより、ストーリーを新しい方向に展開し、会話を促したりさらに深いインサイトを得たりすることが可能になります。

スライドにライブデータシートを挿入し、ストーリーを提示しながら選択ができるようにすると、ストーリーテリングがインタラクティブなものになります。

ストーリーテリングに関するビジュアルデモについては、「[データストーリーテリングによる洞察の共有](#)」を参照してください。

2.1 ストーリー

データストーリーテリングでは、ストーリーを使用して重要ポイントやアイデアをオーディエンスに提示します。ストーリーはスライドのタイムラインとして提示されます。従来のデータストーリーテリング構造 (3幕仕立ての劇、英雄の旅など) を基盤とすることもできます。

こうしたストーリーはアプリ内に組み込まれています。ストーリーはアプリに接続されているため、いつでもライブデータに戻って新しいストーリーや隠れていたストーリーを発見できます。

ストーリーを構築するには、データビジュアライゼーションの時系列スナップショットとライブデータシートを使用して、ストーリーのタイムラインに配置します。

ストーリーに説得力を持たせるには、テキストや図形を追加したり、視覚効果で特定のポイントを強調したり、書式を適用するなどして、ストーリーをよりわかりやすく解説し、目的を明確にします。



Qlik Senseとは別にストーリーを提示したい場合は、ダウンロードできます。

2.2 スナップショット

スナップショットは特定の時点でのデータオブジェクトのステート(タイプとデータ)を図示したもので、ストーリーの構築時に使用できます。ユーザーが取得するスナップショットとは、そのステートのコピーのことです。つまり、対応するデータオブジェクトのステートが更新されても、スナップショットの状態が変化することはありません。

2 データストーリーテリングと洞察の共有

スナップショットは、分析中にシート上の個々のオブジェクトをキャプチャします。スナップショット機能により、ユーザーは特定の時点のビジュアライゼーションやデータを保管しておき、後にストーリーテリングに活用できます。それぞれのスナップショットには、元の場所へのブックマークが含まれているため、生データに素早くアクセスできます。

スナップショットの取得では、注釈を作成することができます。注釈はストーリーを構築する際に、スナップショットライブラリ内でスナップショットを見分けやすくする効果があります。ストーリー再生中、注釈は表示されません。



スナップショットのステートと選択内容は、リロードされたデータでは更新されません。スナップショットが取得された時点で存在したデータのみが反映されます。

2.3 ライブデータシート

ストーリーでライブデータシートを使用すると、ストーリーの再生中にシートを選択を行うことができます。そのため、アプリ自体に移動することなくインサイトを示すことができます。

ストーリーの再生時には、ライブデータシートで選択や選択解除を行うことができます。シート表示でのシートと同じように機能します。



このリセット操作を実行することで、スライドにライブデータシートを挿入した時点の設定にいつでも戻すことが可能です。

- [スナップショットを使用したストーリーのインサイトの収集 \(page 7\)](#)--> [ストーリーを用いた作業 \(page 10\)](#)
- [ストーリーを用いた作業 \(page 10\)](#)--> [スライドの作成 \(page 14\)](#)
- [スライドの作成 \(page 14\)](#)--> [スライドの編集 \(page 15\)](#)
- [スライドの編集 \(page 15\)](#)--> [スライドの整理 \(page 18\)](#)
- [スライドの作成 \(page 14\)](#)--> [強調の追加 \(page 19\)](#)
- [強調の追加 \(page 19\)](#)--> [テキストと図形を使用したスタイル \(page 21\)](#)
- [テキストと図形を使用したスタイル \(page 21\)](#)--> [スライドへの画像の追加 \(page 24\)](#)
- [強調の追加 \(page 19\)](#)--> [ストーリーのプレゼンテーション \(page 28\)](#)

2.4 スナップショットを使用したストーリーのインサイトの収集

アプリの全体像を把握するには、インサイトを収集する必要があります。その方法として、ビジュアライゼーションの静的スナップショットを取得します。

スナップショットは特定の時点でのデータオブジェクトのステート(タイプとデータ)を図示したもので、ストーリーの構築時に使用できます。ユーザーが取得するスナップショットとは、そのステートのコピーのことです。つまり、対応するデータオブジェクトのステートが更新されても、スナップショットの状態が変化することはありません。

スナップショットの取得では、注釈を作成することができます。注釈はストーリーを構築する際に、スナップショットライブラリ内でスナップショットを見分けやすくする効果があります。ストーリー再生中、注釈は表示されません。

2 データストーリーテリングと洞察の共有

特定のビジュアライゼーションのスナップショットを取得すると、ビジュアライゼーションのショートカットメニューから【スナップショット ライブラリ】を開くことができます。そこから、どのスナップショットを残し、ストーリーで使用するかを決定できます。また、スナップショットの注釈を変更したり、スナップショットを削除したりすることも可能です。



ストーリーテリングビューから開いた場合は、アプリ内のすべてのビジュアライゼーションのすべてのスナップショットが表示されます。

スナップショットを取得しようとしているビジュアライゼーションが拡張機能の場合、そのメインスクリプトでスナップショット機能を有効にする必要があります。そのためには、スナップショットのプロパティをtrueに設定します。

スナップショットの取得

シートビューでは、ビジュアライゼーションのスナップショットを取得して、ストーリーに使用できます。

フィルターパネル以外のすべての種類のビジュアライゼーションのスナップショットを取得できます。

次の手順を実行します。

1. シート表示で、ビジュアライゼーションへ移動します。
2. ビジュアライゼーションを右クリックするか、ホバーメニュー...をクリックします。
3.  [ストーリーテリング] >  [スナップショットを取得] をクリックします。
4. スナップショットを撮影し、スナップショットライブラリに保存します。ビジュアライゼーションと同じタイトルになります。

スナップショットの表示

ストーリーの作業中に、スナップショットライブラリのスナップショットをすべて閲覧できます。

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリングビューで、ストーリーツールパネルにある  をクリックします。
最新のスナップショットが一番上にくるように、日付でソートされたスナップショットライブラリが開きます。
2.  をクリックして、スナップショットライブラリを閉じます。

注釈の編集

スナップショットを取得する際に、注釈を追加できます。またスナップショットライブラリでは、注釈を変更したり、注釈のないスナップショットに注釈を追加することが可能です。

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリングビューで、ストーリーツールパネルにある  をクリックします。
スナップショットライブラリが開き、すべてのスナップショットのリストが表示されます。



シート表示で、スナップショットを表示したいビジュアライゼーションを右クリックして... をクリックし、ショートカットメニューから[スナップショット ライブラリ]を選択します。

2.  をクリックします。
3. スナップショット名の右横にある注釈のテキストエリアをクリックします。



公開版アプリに属するスナップショットの注釈を編集することはできません。

4. 注釈を編集します。
5.  またはテキストエリアの外側をクリックします。
これで注釈が保存されました。
6. ライブラリの外側をクリックして閉じます。

スナップショットの削除

スナップショット ライブラリにはアプリ内で取得したすべてのスナップショットが表示されており、ここでスナップショットを削除することもできます。公開版のアプリに属するスナップショットは削除できません。

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリングビューで、ストーリー ツール パネルにある  をクリックします。
スナップショット ライブラリが開き、すべてのスナップショットのリストが表示されます。



シート表示で、スナップショットを表示したいビジュアライゼーションを右クリックして... をクリックし、ショートカットメニューから[スナップショット ライブラリ]を選択します。

2.  をクリックします。
編集が有効になります。
3. 削除したいスナップショットを選択します。



公開版のアプリに属するスナップショットは削除できません。

4.  をクリックします。
選択したスナップショットが削除されます。
5. 編集を中止するには、 をクリックします。
6. ライブラリの外側をクリックして閉じます。

2.5 ストーリーの構築

ストーリーの目的は、インサイトを収集し、データから説明を構築することです。ビジュアライゼーションのスナップショットを取得してスライドに挿入することにより、オーディエンスに対して説得力があるストーリーを構築します。スライドを目立たせるために、視覚効果を施し、テキストや図形を追加し、シートを埋め込んで、ストーリーをインタラクティブにできます。ストーリーはアプリに接続されているため、いつでもライブデータに戻って新しいストーリーや隠れていたストーリーを発見できます。



ストーリーを用いた作業

最初のステップとして、未実行の場合はスナップショットを作成してストーリーに追加します。

そしてストーリーを作成して構築した後に、データを入力します。

[ストーリーの構築](#)

スライドでの作業

スライドはストーリーの構造を作成し、データスナップショットや、画像、タイトル、ライブデータシートなどの他の情報を含めることができます。

ストーリーを用いた作業

このセクションでは、ストーリーを用いて作業する方法について説明します。例えば、ストーリーの作成、複製、設定変更の方法について説明します。

ストーリーの新規作成

次の手順を実行します。

1. アプリ概要から  をクリックしてストーリーを表示
ストーリーテリング ビューから、[アセット] で、 [ストーリー] をクリックします。
2. [ストーリーの新規作成] をクリックします。
[新しいストーリー] というタイトルの新しいストーリーが作成されます。
3. ストーリーにわかりやすいタイトルを付け、必要に応じて説明も加えます。
4. テキストエリアの外側をクリックして、タイトルと説明を保存します。

これで新しいストーリーが保存されました。

ストーリーの編集

アプリにデータをロードしたら、データを分析して新たなインサイトを得ます。この新たなインサイトは、新しいストーリーとして、あるいは既存のストーリーの更新版として提示することができます。

スナップショットのステートと選択内容は、リロードされたデータでは更新されません。スナップショットが取得された時点で存在したデータのみが反映されます。ただし、ライブデータシートは静的ではないため、データのリロードにより影響を受けることになります。

スライド上のビジュアライゼーションのスナップショットは、アプリのビジュアライゼーションのソースを開くことで、置き換えることができます。ビジュアライゼーションのデータが更新されます。ストーリーに使用する新しいスナップショットを取得できます。

スナップショットの取得では、注釈を作成することができます。注釈はストーリーを構築する際に、スナップショットライブラリ内でスナップショットを見分けやすくする効果があります。ストーリー再生中、注釈は表示されません。



元のストーリーを残したい場合は、編集を始める前に複製を作成しておきます。



Qlik Senseとは別にストーリーを提示したい場合は、ダウンロードできます。

ストーリーのタイトルと説明文の変更

ストーリーのタイトルと説明は、いつでも変更できます。

次の点に注意してください。

- ストーリーの名前または説明を変更するには、アプリを個人クラウドまたはグループのワークスペース内に配置する必要があります。

アプリ概要でのタイトルと説明の変更

次の手順を実行します。

1. アプリ概要で、 [ストーリー] をクリックします。
2. ストーリーの  をクリックして、[詳細] を選択します。
3. [詳細を編集] をクリックします。
4. [タイトル] と [説明] を編集します。
5. [完了] をクリックします。

ストーリーテリング ビューでのタイトルと説明の変更

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューで、[アセット] をクリックします。
2. [🔍ストーリー] をクリックします。
3. ストーリーの... をクリックして、[詳細] を選択します。
4. [詳細を編集] をクリックします。
5. [タイトル] と [説明] を編集します。
6. [完了] をクリックします。

ストーリーのサムネイルの変更

アプリ概要 およびストーリー ナビゲーターでストーリーを見分けやすくするために、ストーリーの既定のサムネイルを別のサムネイルに変えることができます。サムネイルには、既定の画像のうちの1つを使用することも、独自の画像を使用することもできます。

アプリ概要のサムネイルを変更する

次の手順を実行します。

1. アプリ概要で、🔍 [ストーリー] をクリックします。
2. ストーリーの... をクリックして、[詳細] を選択します。
3. [詳細を編集] をクリックします。
4. サムネイル上にある 🖼️ をクリックします。
[メディア ライブラリ] が開きます。
5. メディア ライブラリ内の [アプリ内] や [既定] といったフォルダーをクリックします。
6. ストーリーのサムネイルとして使用する画像を選択し、[挿入] をクリックします。
7. [完了] をクリックします。

ストーリーテリング ビューのサムネイルを変更する

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューで、[アセット] をクリックします。
2. [🔍ストーリー] をクリックします。
3. ストーリーの... をクリックして、[詳細] を選択します。
4. [詳細を編集] をクリックします。
5. サムネイル上にある 🖼️ をクリックします。
[メディア ライブラリ] が開きます。
6. メディア ライブラリ内の [アプリ内] や [既定] といったフォルダーをクリックします。
7. ストーリーのサムネイルとして使用する画像を選択し、[挿入] をクリックします。
8. [完了] をクリックします。



サムネイルの最適な縦横比は 8:5 (幅:高さ) です。

次の形式がサポートされています。png、jpg、jpeg、およびgif。

Qlik Senseについて、メディア ライブラリの **[アプリ内]** フォルダに画像をアップロードできます。画像をデフォルトフォルダにアップロードするには、Qlik 管理 コンソールを使用する必要があります。

Qlik Sense Desktop の場合: 画像はコンピューター上の次のフォルダーに配置できます。

C:\Users\\Documents\Qlik\Sense\Content\Default。画像はメディア ライブラリの既定のフォルダーで使用できるようになります。インストール間でアプリを移動する場合、アプリで使用する画像はアプリと一緒に qvf ファイルに保存されます。新しい場所でアプリを開くと、画像はアプリのメディア ライブラリの**アプリ内**フォルダーに保存されます。



サムネイルを追加または変更できるのは、未公開ストーリーのみです。

ストーリーの複製

ストーリーは、アプリに属するものでも自分で作成したものでも、すべて複製できます。ストーリーの複製は、コンテンツを再利用して時間を節約したり、細部を変更してニーズに合ったストーリーを作成するために行います。

複製されたストーリーには、元のストーリーと同じコンテンツが含まれ、同一のスナップショットにリンクされます。ただし、元のストーリーが更新されても、複製されたストーリーには反映されません。複製されたストーリーは、アプリ概要とストーリーナビゲーターの**[マイストーリー]**に表示されます。

アプリ概要からのストーリーの複製

次の手順を実行します。

1. 左側にある  をクリックして、アプリのストーリーを表示します。
2. ストーリーを右クリックします。
ショートカットメニューが開きます。
3. **[複製]** をクリックします。

新しいストーリーが作成されます。**[マイストーリー]**に配置されます。

ストーリーテリングビューからストーリーを複製する

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリングビューで、**[アセット]** をクリックします。
2. **[ストーリー]** をクリックします。
3. ストーリーの **...** をクリックして、**[詳細]** を選択します。
4. ストーリーを右クリックして、**[複製]** を選択します。

新しいストーリーが作成されます。それは**自分のシート**の下にあります。



ストーリーテリング ビューでストーリー ナビゲーター  を使用してストーリーを複製することもできます。

ストーリーの削除

次の手順を実行します。

1. アプリ概要で  をクリックし、ストーリーを表示します。
または、ストーリーテリング ビューから、**[ストーリー]** をクリックします。
2. ストーリーの **...** をクリックして、**[削除]** を選択します。
3. ストーリー削除の確認 メッセージが表示されたら、**[削除]** をクリックします。

スライドでの作業

ストーリーのスライドは、ストーリーの構成を作成することが目的です。

このセクションでは、スライドの追加や順序の変更、削除などスライドを使用した作業について説明します。また、スナップショットやライブデータシートをスライドに追加する方法や、スライドアイテムの順序変更、サイズ変更、コピーを行う方法も紹介します。

次の内容を説明します。

- スライドの作成
- スライドの編集
- スライドの整理

スライドの作成

このセクションでは、ストーリーにスライドを追加する方法と、スライドに複数のソースからデータを追加する方法を紹介します。

ストーリーへのスライドの追加

ストーリーにスライドを追加して、ストーリーを拡張します。

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューから、**[ストーリー]** をクリックします。
2. スライドを追加するストーリーをクリックし、**[すべてのスライドを表示]** をクリックします。
3. **[新しいスライドを追加]** をクリックします。

新しいスライドが追加されます。スナップショットのように、スライドにコンテンツを追加できます。

スライドへのスナップショットの追加

スナップショットは、**[スナップショットライブラリ]** からスライドに追加できます。

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューで、ストーリー ツール パネルにある  をクリックします。
[スナップショット ライブラリ] が開きます。日付スタンプと注釈には、スナップショットを見分けやすくする効果があります。
2. 追加したいスナップショットを特定し、スライドにドラッグします。
スナップショットがグリッドにスナップされます。キーボードの矢印キーを使って自由に移動させることができます。

これでスライドにスナップショットが追加されます。

ライブデータシートをスライドに追加する

ライブデータシートをストーリー スライドに追加できます。ライブデータシートをストーリーに挿入する場合は、アプリの現在の選択が選択したシートと一緒に保存されます。ストーリーでライブデータシートを表示するときは、常にこれらの選択が適用されます。

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューで、ストーリー ツール パネルにある  をクリックします。
ダイアログが開きます。
2. ストーリーに使用したいシートをクリックします。

新しいスライドにライブデータシートが追加されます。

スライドの編集

このセクションでは、スライドの要素の置換、構成、および再編成により、スライドを編集したりカスタマイズしたりする方法を紹介します。

スライドへのスナップショットの置換

スライドにあるビジュアライゼーションのスナップショットを置換できます。これは、ビジュアライゼーションの別のスナップショットを使用する場合に便利です (たとえば、ビジュアライゼーションが変更されたまたは新しく選択された場合に、アプリに新しいデータをロードするときなど)。

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューで、スライドのスナップショットを選択し、ホバーメニューで  をクリックします。[スナップショットの置換] ダイアログが開きます。



[ソースの表示] をクリックして、スナップショットの元になっているシートやビジュアライゼーションに移動できます。これによって、スナップショットのライブデータにアクセスして、新規に選択を行い、新しいスナップを取得できるようになります。

2. 使用したいスナップショットを選択します。

2 データストーリーテリングと洞察の共有

スナップショットが更新され、ビジュアライゼーションで段階的公開が使用されるようになる自由なサイズ変更機能を使用して前回のスナップショットのサイズに調整します。



段階的公開とは、以下を意味します。ビジュアライゼーション(またロック解除されたスナップショット)のサイズが増大すると、その情報は段階的に公開されます。反対に、ビジュアライゼーション(またロック解除されたスナップショット)のサイズが縮小すると情報も削減されるため、限られたスペースに大量の情報を詰め込むことを避け、最も重要な情報に焦点を当てることができるようになります。

これでスライドでスナップショットが置換されます。

スライドのライブデータシートを置換する

スライドのライブデータシートを置換できます。

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリングビューで、ストーリータイムラインにライブデータシートがあるスライドを選択します。ダイアログが開きます。
2. アクティブなシートをクリックします。新しいダイアログが開きます。
3. 挿入する新しいシートを選択します。

選択されたシートがライブデータシートとしてスライドに追加されます。

ストーリー スライド上のアイテムのコピーおよび移動

ストーリー スライド上にあるアイテムは、スライド内またはスライド間のコピーや移動が可能です。アイテムをコピーまたは移動させるには、以下の方法を実行します。

- スライドでツールバーを使用 (📄、✂️、および📄)。
- キーボードショートカットを使用 (Ctrl+C、Ctrl+X、Ctrl+V)



同じアプリのストーリー間ではアイテムをコピーできますが、異なるアプリのストーリー間ではアイテムをコピーできません。ツールバーで📄を使用してストーリー間を切り替えます。

アイテムのコピー

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリングビューで、コピーしたいアイテムをクリックします。アイテムがハイライトされます。
2. 📄 をクリックします。
3. 別のスライドにアイテムを挿入するには、挿入するスライドを選択します。
4. 📄 をクリックします。

他のアイテムの前面に、コピーされたアイテムが挿入されます。

他のスライドへのアイテムの移動

2枚のスライド間でアイテムを移動させるには、希望のアイテムを切り取り、移動先のスライド上に貼り付けます。

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューで、移動させるアイテムをクリックします。
アイテムがハイライトされます。
2. ✂️ をクリックします。
3. アイテムを移動するシートを表示します。
4. 📄 をクリックします。

選択したスライドの他のアイテムの前面に、移動したアイテムが挿入されます。

スライドでのアイテムの並べ替え

ストーリーのスライド編集集中に、アイテムを積み上げて整頓し、積み上げられたアイテムを表示する順序を決めることができます。これは、アイテムが重なっている場合に便利です。

一段階ずつ並べ替える

次の手順を実行します。

1. 並べ替えたいアイテムを右クリックします。
アイテムのショートカットメニューが開きます。
2. [前面に移動] あるいは [背面に移動] を選択します。

選択したアイテムが一段階前面へ移動、あるいは一段階背面へ移動します。

最前面あるいは最背面に並べ替え

次の手順を実行します。

1. 並べ替えたいアイテムを右クリックします。
アイテムのショートカットメニューが開きます。
2. [最前面に移動] あるいは [最背面に移動] を選択します。

選択したアイテムが、スライド上の他のどのアイテムよりも後ろ、あるいは前に移動します。

スライドでのアイテムのサイズ変更

サイズ変更ハンドルを使うと、スライド上のアイテムのサイズを変更できます。画像やテキストのタイトルといったアイテムは、サイズを変更しても元の縦横比が維持されます。パラグラフテキストや特定の図形などは、縦横を問わず、より柔軟にサイズ変更が可能です。

スナップショットのサイズを変更するには、次の2通りの方法があります。

- ロック: 縦横比が維持されます。
- ロック解除: サイズを自由に変更し、段階的に公開できます。



段階的公開とは、以下を意味します。ビジュアライゼーション(またロック解除されたスナップショット)のサイズが増大すると、その情報は段階的に公開されます。反対に、ビジュアライゼーション(またロック解除されたスナップショット)のサイズが縮小すると情報も削減されるため、限られたスペースに大量の情報を詰め込むことを避け、最も重要な情報に焦点を当てることができるようになります。

一般的なサイズ変更

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューで、サイズ変更したいアイテムをクリックします。
2. サイズ変更 ハンドルの1つをドラッグして、アイテムのサイズを変更します。
アイテムがグリッドにスナップされます。
3. サイズ変更 ハンドルをリリースします。

これでアイテムのサイズが変更されます。

スライドからのアイテムの削除

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューで、削除したいアイテムをクリックします。
アイテムがハイライトされます。
2.  をクリックします。

スライドからアイテムが削除されます。



アイテムのショートカットメニューから**[削除]**を選択して、アイテムを削除することもできます。

スライドの整理

このセクションでは、スライドの再編成と削除の方法や、必要に応じてストーリーを構築する方法を紹介します。

ストーリー内のスライドの複製

ストーリー内でスライドを複製できます。

次の手順を実行します。

1. 編集したいストーリーをクリックし、**[すべてのスライドを表示]**をクリックします。
ストーリーが開き、左にスライドのサムネイルが表示されます。
2. 複製するスライドを右クリックします。
3. **[複製]**を選択します。

複製されたスライドが、元のスライドの下に配置されます。

タイムライン上のスライドの順序変更

ストーリーの編集集中に、タイムライン上でスライドを動かすことができます。

次の手順を実行します。

1. タイムライン上で、移動するスライドをロングタッチ/クリックします。
2. スライドを新しい場所にドラッグします。

新しい場所にあるスライドの間に隙間ができ、そこにスライドが配置されます。

ストーリーからのスライドの削除

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューを開き、タイムラインで削除するスライドを右クリックします。スライドのショートカットメニューが開きます。
2. [スライドの削除] をクリックします。

これでストーリーとタイムラインからスライドが削除されます。

2.6 説得力のあるストーリーの作成

説得力のあるストーリーを作成するために、インサイトを強調することができます。

テキスト、画像、図形をストーリー スライドに追加して、強調してください。データが目立つように、スナップショットに効果を適用することもできます。

次の内容を説明します。

[強調の追加](#)

[テキストと図形を使用したスタイル](#)

[スライドへのブックマークの追加](#)

[スライドへのブックマークの追加](#)

[スライドへのリンクの追加](#)

[スナップショットの外観の変更](#)

強調の追加

オーディエンスが理解しやすいよう、洞察を強調して明確にすることができます。

スナップショットに効果を追加して、特定のデータポイントをハイライトするとともに、関係のない情報の表示を抑えます。これによって、オーディエンス向けの情報が過剰に表示されないため、提示したい主要な洞察内容に注目させることができます。

2 データストーリーテリングと洞察の共有

このセクションには、さまざまな効果をスナップショットに適用する方法や、スナップショットでデータポイントをハイライトする方法など、洞察を強調するトピックが掲載されています。

情報過多を抑えて洞察を強調するひとつの手段として、情報を非表示にするという方法が挙げられます。例えば、タイトルや目盛線、データポイント線、脚注、凡例などを非表示にして、スナップショットの外観を変えることができます。

スナップショットへの効果の適用

スナップショットにさまざまな視覚効果を追加することで、特定の値をハイライトすることができます。



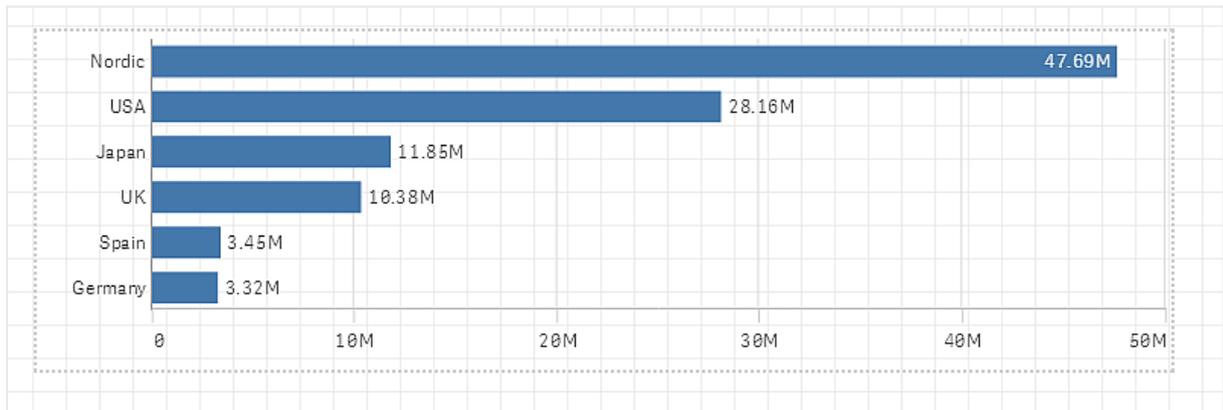
棒グラフ、折れ線グラフ、および円グラフでのみ効果を使用できます。

次の手順を実行します。

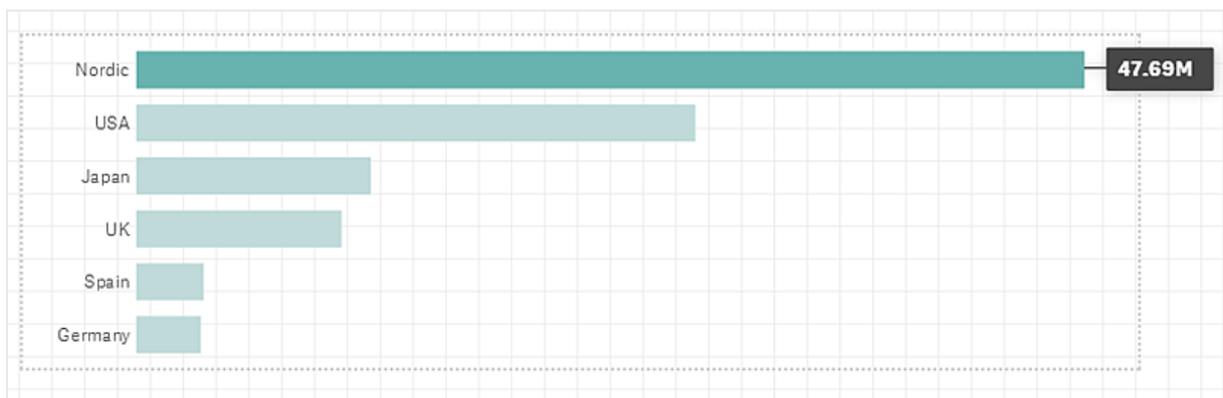
1. ストーリーテリングビューで、 をクリックします。
効果ライブラリが開きます。
2. 使用したい効果を探し出し、スナップショットにドラッグします。

視覚効果が追加されたスナップショットが表示されます。

効果が追加されていない棒グラフのスナップショット。



[最大値] 効果を適用した棒グラフのスナップショット



スナップショットでのデータポイントのハイライト

[任意の値] の効果が適用されているスナップショットでは、特定のデータポイントを選択してハイライトできます。

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューのスライドで、[任意の値] の効果が適用されているスナップショットを選択します。
2. スナップショットで  をクリックします。
データポイントのリストを含むダイアログが表示されます。
3. リストでデータポイントのいずれかをクリックします。



また、スナップショットでデータポイントを直接クリックすることもできます。

4. スナップショットの外側をクリックします。

選択されたデータポイントがスナップショットでハイライトされます。

スナップショットの効果の削除

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューで、削除したい効果が含まれているスナップショットを右クリックします。
ショートカットメニューが表示されます。
2. ショートカットメニューで [効果の削除] をクリックします。

スナップショットから効果が削除されます。

テキストと図形を使用したスタイル

ストーリーに説得力を持たせるために、スタイル要素を追加できます。テキストやハイパーリンク、図形などが良い例です。

このセクションには、アイデアを形にするために役立つトピックが掲載されています。要素を追加したり、要素のサイズ、色、フォントスタイルなどを書式設定できます。

スライドへのテキストの追加

ストーリー スライドには、さまざまなスタイルのテキストを追加できます。

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューで、**AaI** をクリックします。
[テキストオブジェクト] ダイアログが開きます。
2. 追加するテキストのスタイルを特定し、スライドにドラッグします。

2 データストーリーテリングと洞察の共有

テキストオブジェクトがスライドに追加され、グリッドにスナップされます。キーボードの矢印キーを使って自由に移動させることができます。

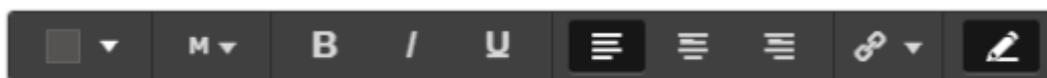
3. テキストオブジェクトをダブルクリックするか、 をクリックします。
4. テキストを入力します。
5. テキストオブジェクトの外側をクリックするか、 をクリックします。

これでテキストが保存されました。

スライド上のテキストの書式設定

ストーリー スライドでは、テキスト書式設定 ツールバーを使用してテキストの書式を変更できます。ここでは、テキストの色やサイズ、フォントスタイル、テキストの配置を変更できます。また、リンクとブックマークを追加することも可能です。

パラグラフテキストオブジェクトのテキスト書式設定 ツールバー



テキストオブジェクトの書式を設定するには、テキストオブジェクトをダブルクリックします。

フォントスタイルの変更

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューを開き、書式設定するテキストオブジェクトをダブルクリックします。または、テキストオブジェクトをクリックし、 をクリックします。
テキスト書式設定 ツールバーが表示されます。
2. スタイルを設定したいテキストを選択します。
3. **B**、**/**、**U** のいずれかをクリックします (複数選択可能)。
4. テキストオブジェクトの外側をクリックするか、 をクリックします。

これでテキストのフォントスタイルが変更されます。

パラグラフのフォントサイズの変更

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューを開き、書式設定する[パラグラフ] テキストオブジェクトをダブルクリックします。または、テキストオブジェクトをクリックし、 をクリックします。
テキスト書式設定 ツールバーが表示されます。
2. サイズを変更したいテキストを選択します。
3. フォントサイズ インジケータの横にある ▼ をクリックし、XS、S、M、L、XL のいずれかのサイズを選択します。
4. テキストオブジェクトの外側をクリックするか、 をクリックします。

これでテキストのフォントサイズが変更されました。

タイトルのフォントサイズの変更

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューを開き、書式設定する[タイトル] テキストオブジェクトをクリックします。
2. テキストの角をドラッグして、フォントサイズを変更します。
3. テキストオブジェクトの外側をクリックするか、 をクリックします。

これでテキストのフォントサイズが変更されました。

パラグラフ内にあるテキストの配置変更

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューを開き、書式設定する[パラグラフ] テキストオブジェクトをダブルクリックします。または、テキストオブジェクトをクリックし、 をクリックします。
テキスト書式設定 ツールバーが表示されます。
2. 配置変更するテキストパラグラフをクリックします。
3. 、、 のいずれかをクリックします。
4. テキストオブジェクトの外側をクリックするか、 をクリックします。

これでテキスト配置が変更されます。



デフォルトでは、左揃えになっています。

テキストの色変更

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューを開き、書式設定するテキストオブジェクトをダブルクリックします。または、テキストオブジェクトをクリックし、 をクリックします。
テキスト書式設定 ツールバーが表示されます。
2. 色を変更したいテキストを選択します。
3. ツールバーのカラー インジケータの横にある▼ をクリックします。
カラーパレットが表示されます。
4. パレット上にある希望の色をクリックします。
5. テキストオブジェクトの外側をクリックするか、 をクリックします。

これでテキストに色が適用されます。

スライドへの図形の追加

スライドには、さまざまな種類の図形を追加できます。

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューで、 をクリックします。
図形ライブラリが開きます。

2. 追加したい図形を検索して、スライドにドラッグします。
図形がスライドに追加され、グリッドにスナップされます。キーボードの矢印キーを使って自由に移動させることができます。

スライドに図形が追加されます。

スライド上の図形の書式設定

図形の書式設定ツールバーを使用し、以下の通り図形の書式設定を行うことができます。

- 色

図形の色変更

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリングビューで、書式設定したい図形をクリックします。
色のオプションを含むツールバーが表示されます。
2. ツールバーのカラースクエアをクリックします。
カラーパレットが表示されます。
3. 色を選択します。
4. 図形の外側をクリックします。

図形に色が適用されます。

スライドへのブックマークの追加

テキスト書式設定ツールバーには、テキストオブジェクトにブックマークを追加するためのリンクオプションがあります。

ブックマークの追加

テキストパラグラフにマークを付けると、ブックマークとして使用できます。

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリングビューで、ブックマークを追加するテキストオブジェクトをダブルクリックします。
テキスト書式設定ツールバーが表示されます。
2. ブックマークとして使用するテキストパラグラフを選択します。
3.  をクリックします。
ダイアログが開きます。
4. 右にある[ブックマーク]をクリックして、リストからブックマークを選択します。
5. テキストの外側をクリックします。

これでブックマークが追加されます。

スライドへの画像の追加

画像をストーリースライドに追加できます。サムネイルには、既定の画像のうちの1つを使用することも、独自の画像を使用することもできます。

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューで、 をクリックします。

[メディア ライブラリ] が開きます。

次の形式がサポートされています。png、jpg、jpeg、およびgif。

Qlik Senseについて、メディア ライブラリの [アプリ内] フォルダに画像をアップロードできます。画像をデフォルトフォルダにアップロードするには、Qlik 管理 コンソールを使用する必要があります。

Qlik Sense Desktop の場合: 画像はコンピューター上の次のフォルダーに配置できます。

C:\Users\アプリ内 フォルダーに保存されます。

2. メディア ライブラリ内の [アプリ内] や [既定] といったフォルダーをクリックします。
3. スライドに追加する画像を選択します。
画像のプレビューが表示されます。
4. [挿入] をクリックします。



また、追加する画像 ファイルを右クリックして [挿入] を選択します。

画像が追加され、グリッドにスナップされます。キーボードの矢印キーを使って自由に移動させることができます。



画像がスライドの幅または高さより大きい場合は、スライドに合わせてサイズが変更されます。

スライドへのリンクの追加

テキスト書式設定 ツールバーには、テキストオブジェクト内にリンクを追加するオプションがあります。

リンクの追加

テキストパラグラフにマークを付けると、リンクとして使用することができます。

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューで、リンクを追加するテキストオブジェクトをダブルクリックします。
テキスト書式設定 ツールバーが表示されます。
2. リンクに使用するテキストパラグラフを選択します。
3.  をクリックします。
リンクのダイアログが開きます。
4. [リンク先] 項目にリンク先の Web アドレスを入力します。



プレフィックスを省略すると、システムはこれをウェブアドレスと見なし、自動的に <http://> を追加します。

5.  をクリックするか、Enter キーを押して新しいリンクを適用します。
6. テキストの外側をクリックします。

これでリンクが追加されます。

リンクの削除

テキストパラグラフからリンクを削除することもできます。

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューで、リンクを削除するテキストオブジェクトをダブルクリックします。
テキスト書式設定 ツールバーが表示されます。
2. リンク内にカーソルを置いた状態で、リンクをクリックします。
3.  をクリックします。
リンクのダイアログが開きます。
4.  をクリック
5. テキストの外側をクリックします。

これでリンクが削除されますが、テキストパラグラフは維持されます。

スナップショットの外観の変更

重要ポイントを強調し、明確に伝える1つの方法として、スナップショットの一部を表示/非表示にすることができます。

スナップショットのプロパティの変更

以下に、編集可能なプロパティをまとめています。

- タイトル (メイン タイトル、サブタイトル、脚注)
- グリッド線の間隔
- ラベル (データポイント ラベル、リーフ ラベル、軸 ラベル)
- 凡例
- タイトルとラベル付きの X 軸
- タイトルとラベル付きの Y 軸

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューで、編集したいスナップショットをクリックします。
2.  をクリックします。
ダイアログが開いて、スナップショットの外観を変更できるようになります。
3. [タイトルの表示] では、[オン] または [オフ] をクリックしてメイン タイトル、サブタイトル、脚注を表示または非表示にします。
4. [グリッド線の間隔] では、グリッド線の間隔を [自動] または [カスタム] に設定して、ドロップダウン リストから [なし]、[広い]、[標準]、または [狭い] オプションのいずれかを選択します。
5. [値ラベル] では、[自動] または [オフ] をクリックします。

2 データストーリーテリングと洞察の共有

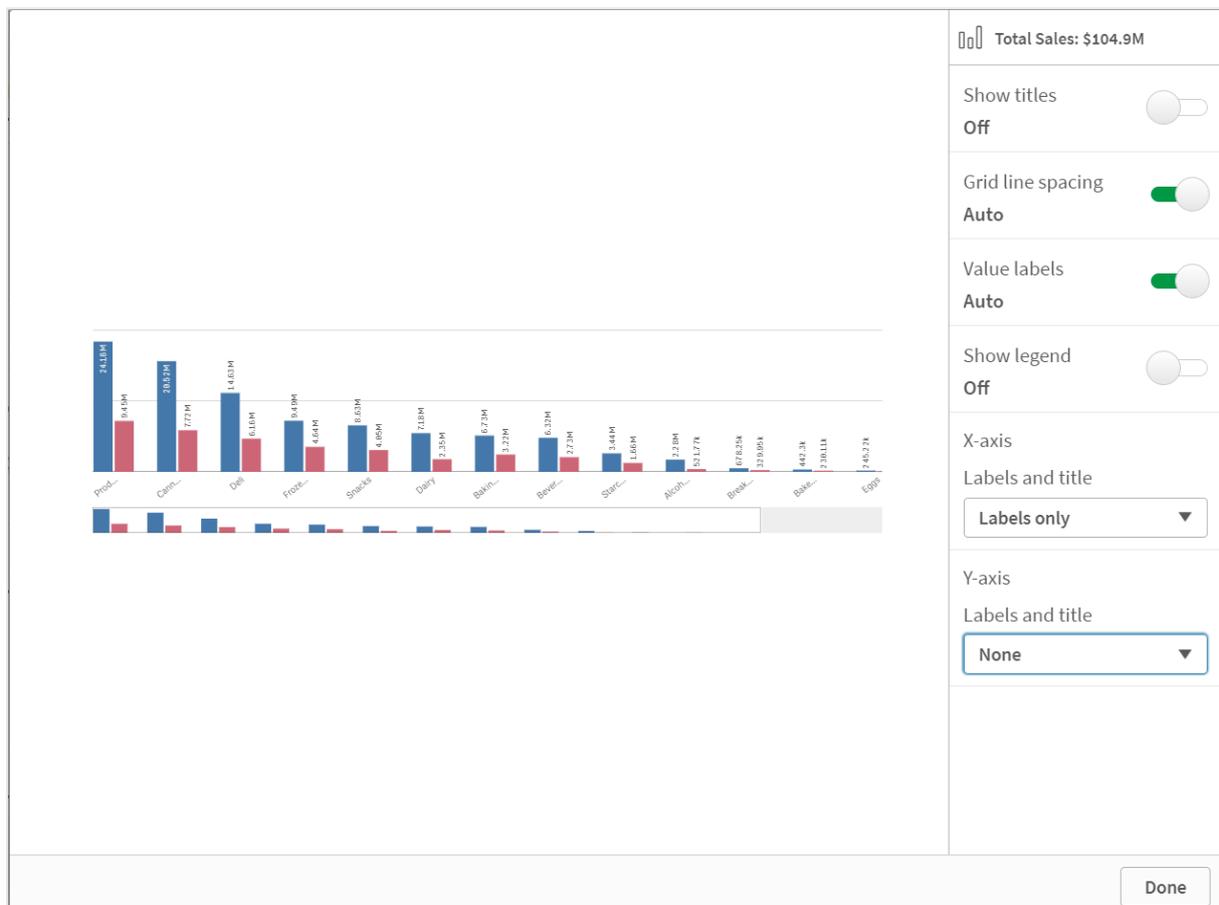
6. [凡例の表示] では、[自動] または [オフ] をクリックします。
7. [x 軸] および [y 軸][ラベルとタイトルについては]、オプション [ラベルとタイトル] または [ラベルのみ]、[タイトルのみ]、[なし] をドロップダウン リストから1つ選択します。
8. [完了] をクリックします。

これでスナップショットの外観が変更されました。



[自動] を選択し、プロパティが表示されない場合、スナップショットのサイズを拡大する必要があります。

グリッド線、X 軸、およびデータラベルだけを表示したスナップショットダイアログ。



スナップショットのサイズ変更時のアスペクト比の変更

スナップショットのサイズの変更時に、縦横比のロックを解除して自由にサイズを変更することもできます。縦横比のロックを解除してサイズを変更すると、ビジュアルイゼーションは段階的公開を使用するようになります。



段階的公開とは、以下を意味します。ビジュアライゼーション(またロック解除されたスナップショット)のサイズが増大すると、その情報は段階的に公開されます。反対に、ビジュアライゼーション(またロック解除されたスナップショット)のサイズが縮小すると情報も削減されるため、限られたスペースに大量の情報を詰め込むことを避け、最も重要な情報に焦点を当てることができるようになります。

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリングビューで、サイズ変更したいスナップショットをクリックします。
2.  をクリックしてアスペクト比のロックを解除し、自由にサイズ変更ができるようにします。
 が表示されます。
3. 端にあるハンドルを使用して、ビジュアライゼーションのサイズを変更します。
サイズを変更すると、ビジュアライゼーションは段階的公開を使用するようになります。
4.  をクリックして、アスペクト比をロックします。

スナップショットの縦横比が変更され、ビジュアライゼーションのサイズが変更されました。



 が表示されている時にビジュアライゼーションのサイズを変更すると、段階的公開は使用されずに画像のサイズが変更されます。

2.7 ストーリーのプレゼンテーション

ストーリーの作成段階で外見や動作を確認する必要がある際には、作成中のストーリーを再生できます。ストーリーの再生は、全画面表示モードで行われます。ここで、スナップショットやライブデータシート、テキスト、図形、視覚効果が実際にどのように表示されるか確認できます。

オーディエンスから質問が出た際は、スナップショットのライブデータやライブデータシートを参照することも可能です。このようにして、ストーリーの可能性を発掘し、ストーリーを新たな方向へと導くことができます。

オーディエンス向けのプレゼンテーション通りに、ストーリーを再生できます。スライドを前後に移動するためのコントロール機能も搭載されています。スライドにライブデータシートが挿入されている場合は、選択を行う前にシートをクリックする必要があります。

再生の開始

次の手順を実行します。

- ストーリーテリングビューで、▶[ストーリーの再生] をクリックします。

ストーリーが開き、現在のスライドから再生できるようになります。



アプリ概要またはストーリーナビゲーターでシートを右クリック、またはショートカットメニューから[再生]を選択してストーリーの再生を開始することもできます。



タッチ式デバイスでは、ピンチ タッチ ジェスチャでスライドをズーム イン、ズーム アウトできます。ズーム インすると、ライブデータシートで選択を行うことができません。

データポイント情報の表示

次の手順を実行します。

- データポイントにマウスを合わせると、データポイントの情報を含むツール ヒントが表示されます。

ライブデータシートを調整する

ライブデータシートを調整して選択を行うには、まずそのシートをクリックします。

次の手順を実行します。

- ライブデータシートをクリックします。

シートで選択ができるようになります。



ライブデータシートの外側をクリックするか別のスライドに移動すると、選択可能な状態が無効になります。

ストーリーのダウンロード

次の手順を実行します。

- スライドの下にある... をクリックします。
-  をクリックして形式を選択します。

詳細については、「[ストーリーのダウンロード \(page 59\)](#)」を参照してください。

再生の終了

次の手順を実行します。

- 再生を終了するには、 をクリックするか、Esc を押します。

スナップショットの生データへのアクセス

(ストーリー スライドの) スナップショットから、元データであるシートやビジュアライゼーションに移動できます。この操作により、スナップショットの生データにアクセスして新たな選択を行い、ストーリーに新しい方向性を持たせることができます。

次の手順を実行します。

2 データストーリーテリングと洞察の共有

1. ストーリーテリング ビューで、スナップショットのあるストーリー スライドに移動します。
2. スナップショットを右クリックします。
スナップショットのショートカットメニューが開きます。
3. [ソースの表示] を選択します。

スナップショットの元になっているシートに移動します。スナップショットが取得された A ビジュアライゼーションが最初にハイライトされます。



スナップショットには、スナップショットを取得するユーザーのアクセス権限に従ってデータが表示され、そのスナップショットは 1 つのストーリーで共有することができます。ただし、ユーザーがアプリでライブデータを見るためにストーリーからビジュアライゼーションに戻ると、それらのスナップショットは、それ独自のアクセス権限によって制限されます。



スナップショットが利用できなくなっている場合は、元になっているシートに移動します。ビジュアライゼーションが配置された全体のシートが利用できない場合は、ストーリーテリング ビューに留まり、[シートがありません] というエラーメッセージが表示されます。



ストーリーを再生中に、スナップショットのライブデータにアクセスできます。

スライドからシートへのアクセス

ストーリーを再生するときに、ライブデータシートからシート表示にあるシートに移動できます。このため、選択が適用されている元のシートにアクセスできます。また、元のシートで新しい選択を行い、ストーリーを新しい方向に展開できます。

次の手順を実行します。

1. ストーリーを再生中に、ライブデータシートのあるストーリー スライドに移動します。
2. [シートの表示] をクリックします。

ライブデータシートで行った選択が反映されているシート表示にあるシートに移動します。

ライブデータシートでの選択

ストーリーを再生すると、シート表示に表示されているシートと同様に、ライブデータシートでも選択ができます。

選択の有効化

次の手順を実行します。

1. ストーリーテリング ビューで、タイムラインの上にある▶ をクリックします。
2. ライブデータシートのあるスライドに移動します。
3. ライブデータシートをクリックして、選択可能にします。

シートがインタラクティブ可能な状態になります。

4. ビジュアライゼーションで選択を開始します。

ビジュアライゼーションが選択に対応し、データのサブセットがフィルターされます。



ライブデータシートの外側をクリックするか別のストーリー スライドに移動すると、選択可能な状態が無効になります。

小型画面でのストーリーの再生中にシートを表示して選択を行うには、シートビューにアクセスする必要があります。

選択のリセット

ライブデータシートで行った選択はリセット可能です。

次の手順を実行します。

- ストーリー再生中にライブデータシートで行った選択をリセットするには、**[選択のリセット]** をクリックします。

ライブデータシートでの選択が、スライドにシートを挿入した時点と同じ選択内容にリセットされます。



このリセット操作を実行することで、スライドにライブデータシートを挿入した時点の設定にいつでも戻すことが可能です。

2.8 トラブルシューティング - データストーリーテリングの使用

このセクションでは、Qlik Sense でデータストーリーテリングを使用するときに発生する可能性のある問題について説明します。

ストーリーを編集できません

ストーリーを変更したいのですが、ストーリーを編集できません。

考えられる原因

ストーリーは公開されています。

提案されたアクション

ストーリーを作成した場合、編集を有効にするには、ストーリーの公開を中止する必要があります。

詳細については、「[ストーリーの公開中止 \(page 44\)](#)」を参照してください。

提案されたアクション

ストーリーを作成しなかった場合、編集を有効にするには、ストーリーの複製を作成します。ただし、元のストーリーが更新されても、複製されたストーリーには反映されません。

詳細については、「[ストーリーを用いた作業 \(page 10\)](#)」を参照してください。

シートが見つからない

ストーリーを再生すると、シートがありません。

考えられる原因

シートが削除されています。

シートはプライベートです (別のユーザーの [マイ シート] に置かれています)。

提案されたアクション

シートがプライベートの場合、シートの所有者に公開の可否を確認します。

詳しくは「[公開 \(page 34\)](#)」と「[シートの公開 \(page 41\)](#)」を参照してください。

スナップショットの外観を変更できない

スナップショットのプロパティで自動を使用したいのですが、スナップショットの外観が変わりません。

考えられる原因

スナップショットが小さすぎます。

提案されたアクション

ストーリーテリング ビューで、スナップショットのサイズを拡大してください。

詳細については、「[スライドの編集 \(page 15\)](#)」を参照してください。

スナップショットを取得できない

スナップショットを取得したいのですが、できません。

考えられる原因

スナップショットを取得しようとしているビジュアライゼーションは不完全です。

スナップショットを取得しようとしているビジュアライゼーションは拡張です。拡張のスナップショット機能は、既定では有効になりません。

スナップショットを取得しようとしているビジュアライゼーションはフィルタペインです。フィルタペインのスナップショットはサポートされていません。

提案されたアクション

ビジュアライゼーションを完了します。

ビジュアライゼーション拡張のメイン スクリプトでスナップショット機能を有効にします。そのためには、スナップショットのプロパティを `true` に設定する必要があります。スクリプトの編集を行う 権限が必要か、または開発者のヘルプが必要です。

ストーリーでスライドの順序を変更できない

ストーリー タイムラインでスライドを移動したいのですが、できません。

考えられる原因

ハイブリッドデバイスでマウスを使用しています。

提案されたアクション

以下のいずれかを行います。

- ナビゲーション ボタン (***) をタップし、[タッチ画面 モード] をオフに切り替えて、タッチ デバイス サポートをオフにします。
- スライドを移動する前に、マウスのボタンを押したままにしてください。
- または、タッチスクリーンを使用し、ロングタッチしてドラッグし、項目を削除します。

スナップショット内のデータがビジュアライゼーション内に存在しない

スナップショットソースに移動する場合に、ビジュアライゼーション内にスナップショット内と同じデータが表示されません。

考えられる原因

スナップショットを取得しているユーザーがデータのアクセス権を持っており、このアクセス権が自身には割り当てられていません。これは、データロードスクリプトに定義されているセクションアクセス権限のためです。

提案されたアクション

スクリプトで、同じセクションアクセス権限を要求してください。

3 公開

公開は、アプリのコンテンツを共有する1つの方法です。アプリはストリームに公開します。

ストリームへのアクセス権を持つ場合、アプリでビジュアライゼーションを操作することによって、データを分析できません。

アプリはコレクションに公開することもでき、Qlik Sense Enterprise 展開の外部でユーザーが使用できるようにします。

通常は、設計の作業を停止してアプリを公開します。アプリの設計には、ビジュアライゼーションの作成およびアプリのプレゼンテーションの整理が含まれます。公開済みのアプリを再公開して、新しいコンテンツで更新できます。

アプリを公開すると、ロックされます。公開済みのシートやストーリーを他のユーザーが編集することはできませんが、データの操作と分析のために使用することは可能です。新しいシートとストーリーを、公開済みアプリの公開シートおよびストーリーに含めるよう承認することができます。これによって、公開済みアプリのコンテンツをコラボレーションして設計できます。

Qlik Sense Enterprise では、管理者は Qlik 管理 コンソール からアプリを公開できます。アプリの所有者は、アプリをハブから公開したり、公開済みのアプリをストリーム間で移動したりすることもできます。公開されたすべてのアプリは、Qlik Sense 管理者が設定した配布ポリシーによって評価されます。これらのポリシーによって、アプリを Qlik Sense Enterprise クラウド ハブで使用できるように配布するかどうかを決定します。

さらに、Qlik Sense Enterprise では、レポートを Qlik NPrinting から Qlik Sense Enterprise ハブに配信できます。QlikView ドキュメントへのリンクも Qlik Sense Enterprise ハブで公開できます。

3.1 インサイトの配布

Qlik Sense Enterprise 展開に応じて、アプリを開発して公開する方法は異なります。

アプリを自身で開発し、ストリームに公開して消費者が使用できるようにすることができます。アプリをコラボレーションして開発している場合は、アプリをストリームに公開すると、そこでレビューアーおよびコラボレーターがシートおよびストーリーを追加できます。その後これらのシートおよびストーリーをアプリの公開コンテンツに含めてから、消費者向けにストリームに公開できます。

アプリの開発および公開のワークフローのサンプルは以下のとおりです。

アプリを Qlik Sense Enterprise の確認ストリームに公開します。

データモデルを作成し、アプリにビジュアライゼーションを作成したら、確認専用のストリームに公開すると、他の Qlik Sense Enterprise ハブユーザーがアクセスし、コラボレーションしてフィードバックを提供できます。

公開済みアプリのコラボレーションによる開発を管理します。

アプリを確認ストリームに公開すると、他の開発者がシートやストーリーをアプリに追加できるようになります。シートおよびストーリーは既定では個人用です。ただし、開発者はそれらをコミュニティシートおよびストーリーとして公開し、他のユーザーが使用できるようにすることができます。

アプリの所有者はコミュニティシート/ストーリーをアプリの公開シート/ストーリーに追加できます。これによって、アプリを複製またはエクスポートするときに、シートとストーリーがアプリに含まれるようになります。

アプリのプロパティを管理します。

Qlik Sense 管理者は、アプリへのアクセスを特定のユーザーまたはグループに限定するなどのタスクに使用する、カスタムプロパティを作成できます。これらのカスタムプロパティを、ハブ内のアプリに追加できます。

公開済みのアプリを消費ストリームに移動します。

アプリの確認およびコラボレーションによる開発が完了したら、公開済みのアプリを消費ストリームに移動すると、そこで対象消費者がアプリにアクセスできます。

アプリを再公開します。

オプションで、アプリを再公開して、新しい公開シートやデータモデルへの更新などの、必要な更新を公開済みのアプリに行います。

アプリを廃止してアーカイブストリームに移動します。

アプリが不要になった場合には、消費ストリームから削除してアーカイブストリームに移動できます。

3.2 Qlik Sense Enterprise ストリームへの公開

Qlik Sense Enterprise 管理者がアプリを Qlik 管理コンソールからストリームに公開すると、ストリームにアクセス可能なユーザーは、アプリのシートとストーリーにアクセスできるようになります。自身のアプリを、ハブから公開アクセス権のあるストリームに公開できます。ハブからストリーム間で公開アプリを移動することもできます。

公開されたアプリの所有者は、サムネイル、アプリ名、および自身で公開したアプリの説明を編集できますが、ストリームに公開済みのアプリはロックされます。他のユーザーはビジュアライゼーションの操作およびデータの分析を実行できます。ただし、アプリで公開された公開シートと公開ストーリーは誰も編集できません。正当なアクセス権限があれば、公開済みのアプリにプライベートシートとストーリーを追加することはできます。

公開済みのアプリを所有している場合、プライベートシートとストーリーを公開済みのアプリに追加し、自身およびコミュニティのシートをアプリの公開シートに含めるように承認できます。アプリの公開シートおよび公開ストーリーは編集できませんが、それらを編集したい場合はプライベートシートとストーリーに変換できます。

公開済みのアプリを変更する必要がある場合は、公開済みのアプリを複製のコンテンツで更新して再公開できます。

ストリーム

ハブの内容は、ストリームで整理されています。ストリームとは、あるユーザーグループが独占的にアクセスできるアプリの集合体です。ストリームのユーザーは、それぞれ異なるアクセス権限を持つことができます。ストリームの読み取りしか許可されていないユーザーがいる一方、ストリームに自分のコンテンツを公開する権限を持つユーザーもいます。

既定では、Qlik Sense に Everyone というストリームがあり、すべてのユーザーに読み取り/公開権限が付与されています。

すべてのユーザーは、所有するコンテンツに関して自身の [作業] スペースおよび [公開済み] スペースを持っています。[作業] には個人用の公開が取り消されたアプリが含まれています。[公開済み] には公開済みのアプリへのリンクが含まれています。これらのリンクによって、公開済みの作業を追跡したり、公開済みのアプリの移動や複製などのタスクをより簡単に実行したりできるようになります。簡単にアクセスできるように、お気に入りの app をマークすることもできます。[お気に入り] スペースは、最低 1 つの app をお気に入りとしてタグ付けしてページを更新すると表示されます。

ストリームに関する閲覧と公開の権限は、Qlik 管理 コンソール で定義されます。

公開済みアプリの複製を使用して、新しいアプリのテンプレートとして使用できます。

ハブにあるアプリは、公開アクセス権のあるストリーム間で移動できます。

シートとストーリー

ストーリーを公開済みアプリの一部として作成できます。これらのシートとストーリーをアプリの一部として公開できます。公開されたシートとストーリーは、アプリ所有者がアプリの公開シートに追加できます。公開シートとストーリーをアプリから削除して、公開済みのシートとストーリーに変更することもできます。

公開済みのアプリで作業する場合、シートおよびストーリーは、そのステータスに応じてアプリ概要のセクションで整理されます。

サンプル アプリの概要には、[公開]、[コミュニティ]、[自分が公開したもの]、[My own] (自分のもの) の4つのセクションが表示されます。

The screenshot displays the Qlik Sense user interface. At the top left is the Qlik logo and a navigation menu with 'Overview' selected. The main header area shows 'Beginner's tutorial' with a sub-header and metadata: 'Data last loaded: Jan 12, 2016, 7:47 AM', 'Published: Oct 23, 2024, 10:34 AM', and 'Published to: Everyone'. Below this is a navigation bar with 'Sheets', 'Bookmarks', and 'Stories' tabs. A search bar and 'Create new sheet' button are also present. The content area is divided into four sections: 'Public (4)' containing four dashboard cards (Dashboard, Product Details, Customer Details, Customer Location); 'Community (1)' containing one card 'My new sheet'; 'Published by me (1)' containing one card 'My customer sheet'; and 'My own (1)' containing one card 'My new sheet' and a 'Create new sheet' button.

[シート表示] セクション

セクション	説明
パブリック	アプリが公開、再公開されたとき、または公開後にアプリの公開シートとストーリーに追加されたときに、アプリに含まれていたシートとストーリー。アプリのユーザー全員がアクセスできます。
コミュニティ	アクセス権のあるアプリに対し、ほかの誰かが作成および公開したシート、ブックマーク、およびストーリー。このセクションのシートとストーリーは、公開シートとストーリーに追加できます。
自分が公開したもの	アプリのユーザー全員がアクセスできるように、作成して公開したシート、ブックマーク、およびストーリー。他のユーザーは、[コミュニティ] セクションからアクセスできます。このセクションのシートは、公開シートに含めるよう承認できます。
自分のもの	作成したけれども公開していないシートおよびストーリー。他の人は閲覧できません。

ブックマーク

アプリが公開される前にアプリ内で作成されたブックマークは、公開されたアプリでは公開ブックマークになります。アプリの公開後、新しいブックマークを作成し、コミュニティブックマークとして公開できます。

アプリの操作

アプリで実行できるタスクは、そのアプリが公開済みかどうかに応じて決まります。

公開が取り消されたアプリ

次の操作が可能です。

- ロードスクリプトの編集およびデータのリロード
- データモデル ビューアを使った、データ構造と詳細の表示
- シート、ビジュアライゼーション、ブックマークの作成、編集、削除
- 再利用のためのマスター アイテム (軸、メジャー、ビジュアライゼーション) の作成
- シート、ストーリー、ブックマーク間の移動
- 選択の実行/取り消し
- ブックマークの適用/リコール

公開済みアプリ

次の操作が可能です。

- シート間の移動
- 最初からアプリに含まれていたシートと視覚的な探索
- 最初からアプリに含まれていたストーリーの表示
- アプリのデータに基づく独自のプライベートシート、ビジュアライゼーション、ストーリーの作成および編集
- 他のユーザーの使用を可能にするために作成したシート、ストーリー、およびブックマークの公開
- 再度プライベートにするための公開したシート、ストーリー、およびブックマークの公開中止
- 自身のプライベートシートの更新

- 公開シートとストーリーへの公開済みのシートとストーリーの追加
- 公開シートとストーリーからのシートとストーリーの削除
- シート間のビジュアライゼーションのコピーと貼り付け
- 最初からアプリに含まれていたマスター アイテム (軸、メジャー、ビジュアライゼーション) の使用
- 独自のプライベートブックマークの作成および編集
- 選択の実行/取り消し
- ブックマークの適用/リコール
- 既定の権限を持つアプリの所有者である場合の、データモデル ビューアーへのアクセス

次の操作はできません。

- ロードスクリプトの編集やデータのリロード
- アプリを所有していない場合は、データモデル ビューアーにアクセスします。
- 最初からアプリに含まれていたビジュアライゼーション、シート、ストーリー、およびブックマークの編集
- 公開済みのシートおよびストーリーの編集

ハブからのアプリの公開

作成したアプリを公開アクセス権のある任意のストリームに公開できます。アプリをストリームに既に公開している場合、公開アクセス権のあるストリーム間でアプリを移動できます。

アプリをストリームに公開すると、アプリがストリームに追加されます。そのアプリへのリンクも **[公開済み]** アプリに追加されて  でマークされ、アプリがストリーム内に存在することを示します。これによって、公開済みの作業を追跡したり、公開済みのアプリの移動や複製などのタスクをより簡単に実行したりできるようになります。アプリを公開するときに、Qlik Sense 管理者が作成したアプリのプロパティをアプリに追加したり、削除したりすることもできます。アプリのプロパティについては、「[アプリのプロパティの管理 \(page 41\)](#)」を参照してください。

アプリを公開するか、ストリーム間で公開アプリを移動すると、そのアプリが属するストリームへのアクセス権を持つユーザーは、アプリのシートとストーリーを使用できるようになります。

開発中のアプリが公開されないように、開発者のみが自分のアプリを公開することをお勧めします。アプリが誤って公開された場合、公開済みアプリに指定されている負荷分散ルールへの準拠を開始する可能性があります。その結果、開発者はアプリにアクセスできなくなります。アクセスを回復するには、開発者はログアウトして再度ログインする必要があります。このアクションにより、負荷分散ルールがリセットされ、新しいセッション評価に基づいてアクセスが復元される可能性があります。



[変数] 概要は、公開済みのアプリでは表示できません。公開済みのアプリで変数を追加または変更する必要がある場合は、ダッシュボードバンドルで使用可能な変数入力コントロールを使用します。

公開済みのアプリは、QMC からのみ削除できます。



制限されているデータを公開しないようにするには、アプリを公開する前に、セクションアクセス設定が含まれるすべての添付ファイルを削除します。添付ファイルはアプリの公開時に含まれます。公開済みアプリがコピーされると、添付ファイルがそのコピーに含まれます。ただし、添付したデータファイルにセクションアクセス制限が適用されている場合、ファイルがコピーされるときにセクションアクセス設定が保持されません。そのため、コピーしたアプリのユーザーは、添付ファイルのすべてのデータを表示することができます。

次の手順を実行します。

1. ハブの [作業] で、アプリを右クリックして、次のいずれかの操作を実行します。
 - [公開] を選択する。
 - [移動] を選択する。
2. [ストリーム名] ドロップダウンリストで、アプリの公開先のストリームを選択します。



1つのストリームのみに対するアクセス権がある場合は、ドロップダウンが表示されません。

3. [アプリ名] 項目に名前を入力します (オプション)。項目に、ハブから選択したアプリの名前が表示されません。



同じ名前を持つ多数のアプリをストリームに公開することは可能です。同じ名前を持つ公開済みのアプリが1つのストリーム内にある場合は、Qlik Sense がそれを示します。

4. アプリのプロパティを追加する場合は、[管理] をクリックしてアプリのプロパティを選択し、値を選択して [適用] をクリックします。
5. [公開] または [移動] をクリックします。

公開されたアプリが選択したストリームに存在するようになりました。公開されたアプリ用のエントリが [公開済み] アプリに追加され、公開されたアプリをその新しいストリームにリンクします。

現在アプリが表示されているストリームにアプリを公開または移動すると、それが通知され、そのストリームのアプリリストを更新できます。

ハブからのアプリの再公開

アプリをストリームに公開した後、アプリをストリームから削除せずに、アプリのベースコンテンツを変更する必要がある場合があります。

例えば、作業を続行しながら、公開済みのアプリのコミュニティおよびプライベートのコンテンツを失わないように、公開済みのアプリを改善したい場合があります。アプリを再公開するには、公開済みのアプリを複製する必要があります。複製アプリには元のアプリへのリンクが含まれています。その後、複製アプリに変更を行い、公開済みのアプリと同じストリームに戻して再公開します。

再公開時に、基本セクションのすべてのコンテンツが複製のコンテンツで上書きされます。元のアプリのコンテンツ (プライベートおよびコミュニティのシートおよびストーリーなど) は、アプリを再公開するときに保持されます。

QMC からアプリを再公開することもできます。

次の手順を実行します。

1. [作業] で、複製したアプリを右クリックして[公開]を選択します。
2. [既存のアプリを置換]を選択します。
3. [Republish] (再公開) をクリックします。

アプリのプロパティの管理

Qlik Sense 管理者は、QMC でアプリのカスタム プロパティを作成できます。

アプリへのアクセスを制限する配布ポリシーを作成するなどのタスクに、これらのプロパティを使用できます。管理者はユーザーまたはグループ用のカスタム プロパティを作成して、ユーザーまたはグループの名前を値としてプロパティに追加することもできます。アプリを公開または移動しているときにも、これらのカスタム プロパティおよびこれらのプロパティの特定の値を、アプリの[作業] およびストリームに適用できます。



アプリを未公開アプリに追加することはできますが、カスタム プロパティの設定によっては適用できない場合があります、その場合は Qlik Sense 管理者が制御します。

アプリのプロパティは、[プロパティの管理] ダイアログで、そしてアプリの詳細から表示できます。

次の手順を実行します。

1. ハブでアプリを右クリックして、[プロパティの管理] を選択します。
アプリの詳細から[プロパティの管理] にアクセスすることもできます。アプリの ⓘ をクリックして、[管理] をクリックします。
2. 以下のいずれかを行います。
 - プロパティをアプリに追加するには、アプリのプロパティを選択して、そのプロパティから値を選択します。
値を検索することができます。
 - アプリのプロパティを削除する場合は、プロパティ値の ✕ をクリックします。
3. [適用] をクリックします。

シートの公開

作成したシートを公開して他のユーザーが閲覧できるようにすることができます。



シートは、すでに公開されているアプリの一部としてのみ公開できます。

次の手順を実行します。

1. アプリ概要で ☰ をクリックし、シートを表示します。
2. 公開したいシートを右クリックして、[公開]を選択します。

[シートの公開] ダイアログが表示されます。

3. [公開] をクリックします。

シートが公開され、[マイシート] から[自分が公開したもの] に移動します。

同じアプリへのアクセス権を持つ他のユーザーは、[コミュニティ] セクションから公開済みのシートを閲覧できます。



ナビゲーションバーで... をクリックして[シートを公開する] を選択するか、アセットパネルでシートを右クリックして、シート表示にシートを追加することもできます。

シートの公開中止

公開済みのシートを元に戻して、公開を取り消すことで他のユーザーが利用できないようにできます。

次の手順を実行します。

1. アプリ概要で  をクリックし、シートを表示します。
2. [自分が公開したもの] で目的のシートを見つけます。
3. シートを右クリックして、[公開を取り消す] を選択します。
[シートの公開を取り消す] ダイアログが表示されます。
4. [公開を取り消す] をクリックします。
シートは非公開となり、[自分が公開したもの] から [My own] (自分のもの) に移動します。

これで、アプリの他のユーザーはこのシートを使用できなくなります。



ナビゲーションバーで... をクリックして[シートの公開を取り消す] を選択するか、アセットパネルでシートを右クリックして、シート表示にシートを追加することもできます。

アプリの公開シートへのシートの追加

自分が所有する公開シートとコミュニティシートの両方の公開シートを承認して、アプリの公開シートに追加することができます。

公開されているシートとは異なり、公開されているシートに追加されているシートは、アプリが複製されたりエクスポートされたりした場合に含まれます。シートを公開シートに追加すると、アプリの公開シートをコラボレーションして開発することができます。

次の手順を実行します。

- アプリで、コミュニティシートまたは公開済みのシートの1つを右クリックして、[Approve] (承認) を選択します。

これで、このシートはアプリの公開シートに含まれました。



ナビゲーションバーで... をクリックして[シートを承認する]を選択するか、アセットパネルでシートを右クリックして、シート表示にシートを追加することもできます。

アプリの公開シートからのシートの削除

元々アプリ内にあった公開シート、およびベースシートに含むよう承認された公開シートの両方とも、アプリから削除することができます。

公開シートを削除するとき、シートを自分が公開した場合はアプリの[自分が公開したもの]セクションに移動し、別のユーザーが公開した場合は[コミュニティ]セクションに移動します。シートが別のユーザーに属していた場合は、そのユーザーが再度所有者になります。アプリが複製またはエクスポートされる場合には、公開シートから削除されたシートは含められません。

次の手順を実行します。

- アプリでベースシートを右クリックして、[承認しない]を選択します。

シートは、アプリの[自分が公開したもの]セクションまたは[コミュニティ]セクションに移動します。



また、... をクリックして[承認しない]を選択するか、あるいはシートナビゲーターでシートを右クリックすることによって、シート表示でシートを削除することもできます。

ストーリーの公開

作成したストーリーを公開して他のユーザーが閲覧できるようにすることができます。



ストーリーは、すでに公開済みのアプリの一部としてのみ公開できます。

次の手順を実行します。

1. アプリ概要で  をクリックし、ストーリーを表示します。
2. 公開したいストーリーを右クリックして、[公開]を選択します。
[ストーリーの公開]ダイアログが表示されます。
3. [公開]をクリックします。

ストーリーが公開され、[マイストーリー]から[自分が公開したもの]に移動します。

同じアプリへのアクセス権を持つ他のユーザーは、[コミュニティ]セクションから公開済みのストーリーを閲覧できます。



ストーリーの公開は、ストーリーテリングビューで  をクリックして[ストーリーの公開]を選択するか、ストーリーナビゲーターのストーリーを右クリックしても実行できます。

ストーリーの公開中止

公開済みのストーリーを元に戻して、公開を取り消すことで他のユーザーが利用できないようになります。

次の手順を実行します。

1. アプリ概要で  をクリックし、ストーリーを表示します。
2. [自分が公開したもの] で目的のストーリーを見つけます。
3. ストーリーを右クリック/ロングタッチして、[公開を取り消す] を選択します。
[ストーリーの公開を取り消す] ダイアログが表示されます。
4. [公開を取り消す] をクリックします。
ストーリーは非公開となり、[自分が公開したもの] から [My own] (自分のもの) に移動します。

これで、アプリの他のユーザーはこのストーリーを使用できなくなります。



ストーリーの公開中止は、ストーリーテリングビューで... をクリックして [ストーリーの公開を取り消す] を選択するか、ストーリーナビゲーターのストーリーを右クリックしても実行できます。

アプリの公開ストーリーへのストーリーの追加

自分が所有する公開ストーリーとコミュニティストーリーの両方の公開ストーリーを承認して、アプリの公開ストーリーに追加することができます。

公開されているストーリーとは異なり、公開されているストーリーに追加されているストーリーは、アプリが複製されたりエクスポートされたりした場合に含まれます。ストーリーを公開ストーリーに追加すると、アプリの公開ストーリーをコラボレーションして開発することができます。

次の手順を実行します。

- アプリで、コミュニティストーリーまたは公開済みのストーリーの1つを右クリックして、[承認] を選択します。

これでアプリの公開ストーリーにストーリーが含まれます。



ストーリーの追加は、ストーリーテリングビューで... をクリックして [承認] を選択するか、ストーリーナビゲーターのストーリーを右クリックしても実行できます。

アプリの公開ストーリーからのストーリーの削除

元々アプリ内にあった公開ストーリー、および公開ストーリーに含むよう承認された公開ストーリーの両方とも、アプリから削除することができます。

公開ストーリーを削除するとき、ストーリーを自分が公開した場合はアプリの **[自分が公開したもの]** セクションに移動し、別のユーザーが公開した場合は **[コミュニティ]** セクションに移動します。ストーリーが別のユーザーに属していた場合は、そのユーザーが再度所有者になります。アプリが複製またはエクスポートされた場合には、公開ベースストーリーから削除されたストーリーは含められません。

次の手順を実行します。

- アプリで公開ストーリーを右クリックして、**[Unapprove]** (承認しない) を選択します。

ストーリーは、アプリの **[自分が公開したもの]** セクションまたは **[コミュニティ]** セクションに移動します。



⋯ をクリックして **[承認しない]** を選択するか、ストーリーナビゲータでストーリーを右クリックして、ストーリービューでストーリーを削除することもできます。

ブックマークの公開

アプリ概要内の **[コミュニティ]** に作成したブックマークは公開できます。このアプリにアクセス権のあるユーザー全員が、これらのブックマークを適用できます。



ブックマークは、すでに公開されているアプリの一部としてのみ公開できます。

次の手順を実行します。

1. アプリの概要から、 をクリックしてブックマークを表示します。
2. 公開したいブックマークを右クリックして、**[公開]** を選択します。
[ブックマークの公開] ダイアログが表示されます。
3. **[公開]** をクリックします。

ブックマークが公開され、**[My own]** (自分のもの) から **[自分が公開したもの]** に移動します。

同じアプリへのアクセス権を持つ他のユーザーは、**[コミュニティ]** セクションから公開済みのブックマークを閲覧できます。



[ブックマーク] のアセットパネルでブックマークを右クリックすることにより、シート表示でブックマークを公開することもできます。

ブックマークの公開を取り消す

公開済みのブックマークを元に戻して、公開を取り消すことで他のユーザーが利用できないようになります。

次の手順を実行します。

1. アプリの概要から、🔖 をクリックしてブックマークを表示します。
2. [自分が公開したもの] で目的のブックマークを見つけます。
3. ブックマークを右クリックして、[公開を取り消す] を選択します。
[ブックマークの公開を取り消す] ダイアログが表示されます。
4. [公開を取り消す] をクリックします。
ブックマークの公開は取り消され、[自分が公開したもの] から[マイブックマーク] に移動します。

これで、アプリの他のユーザーはこのブックマークを使用できなくなります。



アセットパネルでブックマークを右クリックして、シート表示でブックマークを非公開にすることもできます。

公開済みアプリ内におけるブックマークへのリンクのコピー

[公開] または [コミュニティ] で、ブックマークへのリンクの作成と共有ができます。ブックマークへのリンクをコピーするには、ブックマークを右クリックし、[リンクをコピー] を選択します。リンクを使用すると、ユーザーはブックマークが適用されたアプリに移動します。リンクは、アプリへのアクセス権があるユーザーが使用する場合にのみ有効です。

3.3 Qlik Sense Client-Managed モバイル用 Qlik Sense Enterprise ストリームへの公開

Qlik Sense Enterprise でストリームに公開される Qlik Sense アプリとマッシュアップは、Qlik Sense Client-Managed モバイル アプリで表示可能です。

Qlik Sense Client-Managed モバイル アプリをインストール済みのユーザーは、必要なアクセス権限が与えられていればストリームにおいて Qlik Sense アプリを操作できます。

Qlik Sense アプリは通常、Qlik Sense Enterprise サーバーに接続されている Web ブラウザーで開発します。Qlik Sense 管理者がアプリまたはマッシュアップを公開すると、それは Qlik Sense Client-Managed モバイル アプリでも使用可能になります。Qlik Sense Client-Managed モバイル アプリからマッシュアップにアクセスするには、Qlik Sense November 2018 が必要です。

管理者は QMC でアクセス権限を構成します。さらに、管理者は Qlik Sense Client-Managed モバイル アプリで Qlik Sense アプリをストリームからダウンロードできるかどうかを構成できます。Qlik Sense をダウンロードすると、オフラインでも表示できます。

モバイル アプリ用に公開できるようにするため Qlik Sense Client-Managed モバイル アプリをインストールする必要はありません。ただし、モバイル アプリで使用する場合はすべての Qlik Sense アプリをテストすることを推奨します。

3.4 Qlik Sense Enterprise on Windows から他のハブへの公開

Qlik Sense Enterprise on Windows ハブへのアクセス権を持たないユーザーがアプリを使用できるようにする場合は、アプリをクラウドハブに公開できます。

マルチクラウドが有効化された Qlik Sense Enterprise 展開で、Qlik Sense 管理者は QMC 内に配布ポリシーを作成します。次に、Qlik Sense 管理者はアプリのストリームを作成します。アプリのプロパティが適用された配布ポリシーでアプリを公開または移動すると、アプリは Qlik Sense によりクラウドハブにコピーされます。クラウドハブで、アプリはステージングされます。その後テナント管理者または分析管理者は、クラウドハブの管理スペース内で段階アプリを有効にします。

段階アプリ

Qlik Sense SaaS では、スペース外の所有者がいないアプリを段階アプリと呼びます。アプリが Qlik Sense Enterprise on Windows からクラウドハブに公開されると、アプリには所有者またはスペースがなくなります。テナント管理者または分析管理者は、Administration アクティビティセンターから管理スペースに割り当てることができます。

Administration における段階アプリの管理の詳細については、「[アプリの管理](#)」を参照してください。

タグ

クライアント管理 Qlik Sense から Qlik Cloud に配布されるアプリでタグを使用する場合は、[Tags] というカスタムプロパティを作成してから、アプリの配布時に使用できる適切な値を追加する必要があります。分散アプリにタグ値 [Sales] がある場合、その値はクラウドアプリと同期され、アプリの詳細に表示されます。配布されたアプリにタグ値がない場合、アプリの詳細に表示される値は空です。

ストリームとタグ

Qlik Sense 管理者は配布ポリシーを作成して、アプリのプロパティが1つ以上のタグ付きでクラウドハブに追加された、公開済みのアプリを配布できます。

アプリを Qlik Sense Enterprise on Windows 内のストリームに公開すると、配布ポリシーによって、タグ付きのアプリを受け取るターゲットクラウドハブが指定されます。Qlik Sense Enterprise on Windows ハブでの公開時に、宛先のクラウドハブとタグを制御するアプリのプロパティを設定できます。公開すると必ず、Qlik Sense Enterprise on Windows でアプリがストリームからクラウドハブにタグ付きでコピーされます。各配布の宛先は、Qlik Sense 管理者が管理する配布ポリシーによって制御されます。

アプリは1つのストリームにしか公開できませんが、複数のタグ付きで複数のクラウドハブに公開できます。



管理者はストリームポリシーの最後の同期の時間を確認できます。

組織によっては、単にアプリを削除するのではなく、配布ポリシーが設定されていないアーカイブストリームにアプリを移動する方が適している場合があります。

タグ付きのアプリは、その他の Qlik Sense Enterprise on Windows ストリーム内のアプリのように、Qlik Sense Enterprise on Windows ハブ内で変更できます。Qlik Sense Enterprise on Windows ハブでは次の操作が可能です。

- ストリーム内のアプリを複製する。
- ストリーム内のアプリを再公開する。
- アプリのカスタム プロパティを管理する。
- **[Published (公開済み)]** のアプリを開きます。

Qlik Sense Enterprise on Windows に開いたアプリでは、次の操作が可能です。

- 個人用のシートおよびストーリーを公開する、および公開を取り消す。
- 公開シートおよびストーリーをアプリに追加する、またはアプリから削除する。

タグ付きのクラウド ハブへのアプリの公開

アプリは、書き込みアクセス権を持っているタグ付きのクラウドハブに公開できます。これはストリームへの公開と同時に実行します。すでにストリーム内にある app でも、タグ付きのクラウドハブに公開できます。

アプリを Qlik Sense Enterprise on Windows 内のストリームに公開すると、Qlik Sense 管理者が作成した配布ポリシーによって、カスタム アプリプロパティを使用してタグ付きのアプリを受け取るターゲットクラウドハブが指定されます。アプリをストリームに公開するときに、公開先のクラウドハブとタグを制御するアプリのプロパティを設定できます。ストリームに既にある公開済みアプリのプロパティを設定することもできます。これらのプロパティを設定すると、Qlik Sense では選択したタグ付きの選択したクラウドハブに、ストリーム内の app がコピーされます。

アプリがクラウドハブに公開されると、テナント管理者または分析管理者は、クラウドハブのスペース内で段階アプリを利用可能にできます。

展開に複数のクラウドハブが含まれている場合は、その1つを選択する必要があります。



制限されているデータを公開しないようにするには、アプリを公開する前に、セクションアクセス設定が含まれるすべての添付ファイルを削除します。添付ファイルはアプリの公開時に含まれます。公開済みアプリがコピーされると、添付ファイルがそのコピーに含まれます。ただし、添付したデータファイルにセクションアクセス制限が適用されている場合、ファイルがコピーされるときにセクションアクセス設定が保持されません。そのため、コピーしたアプリのユーザーは、添付ファイルのすべてのデータを表示することができます。

タグ付きのクラウドハブへのアプリの公開



タグと公開先のクラウドハブのカスタムプロパティは、Qlik Sense 管理者によって指定されます。これらの名前は、この手順で使用されている名前とは異なる場合があります。

次の手順を実行します。

1. Qlik Sense Enterprise on Windows ハブで [作業] のアプリを右クリックして、[公開] を選択します。
2. [ストリーム名] ドロップダウン リストでストリームを選択します。



1つのストリームのみに対するアクセス権がある場合は、ドロップダウン リストが表示されません。

3.  同じ名前を持つ多数のアプリをストリームに公開することは可能です。同じ名前を持つ公開済みのアプリが1つのストリーム内にある場合は、Qlik Sense がそれを示します。

4. オプションで、[アプリ名] 項目でアプリの名前を変更できます。この項目に、ハブから選択したアプリの名前が表示されます。
5. [管理] をクリックします。
6. [タグ] の場合、値のリストから1つ以上のタグを選択します。
7. [適用] をクリックします。
8. [公開] をクリックします。

これで公開済みのアプリは、[プロパティの管理] ダイアログで選択したタグ付きクラウドハブに配置されます。テナント管理者は、段階アプリを管理スペースに追加できます。

タグ付きのクラウドハブへの公開済みアプリの配布

次の手順を実行します。

1. ストリームでアプリを右クリックして、[プロパティの管理] を選択します。
2. [タグ] の場合、値のリストから1つ以上のタグを選択します。
3. [適用] をクリックします。

これで公開済みのアプリは、[プロパティの管理] ダイアログで選択したタグ付きクラウドハブに配置されます。テナント管理者は、段階アプリを管理スペースに追加できます。

公開されたアプリのタグの編集

次の手順を実行します。

1. ストリームでアプリを右クリックして、[プロパティの管理] を選択します。
2. 必要に応じてタグを編集します。
3. [適用] をクリックします。

新しいタグが選択された場合、アプリは対応するテナントに配布されます。

3.5 Qlik Sense プラットフォーム間での公開

一部の Qlik Sense プラットフォーム間でアプリを直接公開することはできません。

たとえば、Qlik Sense Desktop から Qlik Sense Enterprise にアプリを公開することはできません。代わりに、プラットフォームからアプリのコピーをダウンロードして、そのコピーを他のプラットフォームにアップロードする必要があります。その後、コピー先のプラットフォームでアプリを公開することができます。

Qlik が製品のプライバシーを管理する方法については、「[Qlik 製品のプライバシー通知](#)」を参照してください。



Qlik Sense Desktop でアプリを公開することはできません。

アプリを別のプラットフォームにコピーするときには、以下を考慮してください。

- 相手先プラットフォームでデータ接続を再作成する必要があります。
- 相手先プラットフォームで、一部の機能がサポートされない場合があります。
- 特定の操作の実行に適した権限が必要です。例えば、Qlik 管理 コンソール からアプリのインポートおよびエクスポートができるのは、Qlik Sense Enterprise 管理者のみです。

Qlik Sense Enterprise では、アプリは QMC でインポートおよびエクスポートできます。

Qlik Sense SaaSでは、アプリはハブでインポートおよびエクスポートできます。エクスポートするには、アプリで **...** をクリックします。インポートするには、**[新規追加]**、**[アプリをアップロード]** の順にクリックします。

Qlik Sense Desktop では、アプリは次の場所にコピーできます
す: `C:\Users\username\Documents\Qlik\Sense\Apps`

3.6 Qlik Sense の Qlik NPrinting レポート

レポートは Qlik NPrinting から Qlik Sense ハブに配布できます。

受信者は、Qlik Sense および Qlik NPrinting 両方で Active Directory ユーザーグループの一部であるユーザーの名前が付けられている必要があります。レポートは個人用であり、配布されたユーザーしか閲覧することができません。

ハブで **[レポート]** をクリックすると、レポートを閲覧できます。レポートの形式には PDF、Excel、Word、PowerPoint、PixelPerfect、および HTML が含まれます。

制限事項

- Qlik NPrinting レポートを Qlik Sense ハブから削除することはできません。
- レポートを Qlik Sense 検索で見つけることはできません。

Qlik NPrinting レポートを Qlik Sense に配布する

Qlik NPrinting レポートの Qlik Sense への配布をスケジュールできます。

要件

Qlik NPrinting レポートの Qlik Sense への配布を有効にし、構成するための必要条件:

- Qlik NPrinting のバージョンが 17.1 以降である。
- Qlik Sense システム管理者によって、Qlik Sense QMC から証明書 (client.pfx、server.pfx および root.cer) がエクスポートされている。証明書のエクスポート時に、秘密のキーを含める必要があります。
- 証明書は、Qlik NPrinting 管理者によって、Qlik NPrinting スケジューラー サービスが稼働するすべてのコンピューターにインストールされています。

- ファイアウォール ルールが作成され、Qlik Sense QRS のポート4243 での受信接続が許可されました。
- Qlik NPrinting でのレポートの配布を構成するには、**[公開]** タスクが承認された Qlik NPrinting スケジューラー サービス ユーザーである必要があります。同様に、次の情報も必要です。
 - Qlik Sense サーバーのセントラル ノードアドレスこれは、**[ノード]** の下の Qlik Sense QMC で入手できます。



証明書のインストール方法、および Qlik NPrinting から Qlik Sense へのレポート配布を構成する方法の詳細については、Qlik NPrinting ヘルプを参照してください。

次の手順を実行します。

1. **[公開]** タスクが承認されているユーザーとして Qlik NPrinting にログインします。
2. **[転送先]**、**[ハブ]** の順に選択します。Qlik Sense ハブを転送先として追加します。Qlik Sense サーバーのセントラル ノードアドレスが必要です。
3. **[公開]** タスクを作成し、Qlik NPrinting アプリ、レポート、ユーザー、スケジュール、そして転送先としてハブを指定します。

Qlik NPrinting 内の Qlik Sense アプリに接続する

Qlik NPrinting から Qlik Sense アプリへの接続を作成することができます。その後、Qlik NPrinting 内でデータを使用してレポートを作成および設計できます。

要件

Qlik NPrinting から Qlik Sense アプリへの接続を有効にし、作成するための必要条件:

- Qlik NPrinting から Qlik Sense ヘレポートを配布する場合と同じ証明書の必要条件が適用されます。ただし、証明書がすべての Qlik NPrinting Engine コンピューターにインストールされている必要があります。
- ファイアウォール ルールが作成され、Qlik Sense QRS のポート4243 での受信接続が許可されました。
- Qlik NPrinting で Qlik Sense アプリへの接続を作成するには、**[接続]** タスクが承認された Qlik NPrinting ユーザーである必要があります。同様に、次の情報も必要です。
 - Qlik Sense サーバーのプロキシアドレス (フル コンピューター名)。
 - Qlik Sense アプリID。これは、**[アプリ]** の下の Qlik SenseQMC で入手できます。
 - Qlik Sense 管理者の Windows ドメインおよびユーザー名。これは、**[ユーザー]** の下の Qlik Sense QMC で入手できます。



証明書のインストール方法、および Qlik NPrinting から Qlik Sense アプリへの接続を構成する方法の詳細については、Qlik NPrinting ヘルプを参照してください。

Qlik Sense レポートへの接続を作成するには Qlik NPrinting で次のタスクを実行します。

1. **[接続]** タスクが承認されているユーザーとして Qlik NPrinting にログインします。
2. **[アプリ]** ドロップダウン リストを選択し、リストから**[アプリ]** を選択します。**[アプリの追加]** をクリックして、新しい Qlik NPrinting アプリを作成します。

3. [アプリ]、[接続] の順に選択します。[接続の作成] をクリックし、作成したアプリを選択し、その後、[ソース] として Qlik Sense をクリックします。接続の作成を終了するには、次の情報が必要です。
 - Qlik Sense サーバーのプロキシアドレス (フル コンピューター名)。
 - Qlik Sense アプリID。
 - Qlik Sense 管理者の Windows ドメインおよびユーザー名。

3.7 Qlik Sense 内の QlikView ドキュメント

ファイルを電子メールで配布したり、特定のフォルダーの場所に配布したりする代わりに、Qlik Sense ハブの QlikView ドキュメントにリンクを公開することができます。

この方法は、QlikView および Qlik Sense の **[Active Directory]** ユーザーグループの一部である特定のユーザーと QlikView ドキュメントを共有する場合に使用できます。QlikView では、管理者が Qlik Sense への配布を設定する必要があります。

要件

QlikView および Qlik Sense の要件

QlikView ドキュメントの公開を有効にするには、次の条件が必要です。

- QlikView のバージョンが 12.00 SR3 以降である。
- QlikView のインストールに、Publisher のライセンスが含まれる。
- システム管理者によって、Qlik Sense Management Console からそれぞれの QlikView Distribution Service (QDS) マシンに異なる証明書セット (*client.pfx*、*server.pfx*、*root.cer*) がエクスポートされている。
- Qlik Sense が共有コンテンツを使用できるように構成されている。
- QlikView AccessPoint へのサーバー接続が、マシン名を使用するように構成されている。

QlikView の証明書要件

QlikView の証明書セットを作成する場合、次の手順が必要です。

- 証明書は、QDS マシンのドメインを含むフルネームを使用して作成する必要があります。
- 証明書はパスワードで保護する必要があります。
- 秘密キーペアの作成が必要です。

構成要件

以下のトピックには、Qlik Sense ハブで QlikView ドキュメントへのリンクを公開する場合に必要な構成の詳細について記載されています。

- [Configuring Qlik Sense to allow users to publish a link to shared content](#) (共有コンテンツへのリンクの公開をユーザーに許可するための Qlik Sense の構成)
- [Configuring the QlikView Distribution Service with the Qlik Sense certificates](#) (Qlik Sense 証明書を使用した QlikView Distribution Service の構成)
- [QlikView ドキュメントへのリンクを Qlik Sense Hub ハブで公開するタスクの作成](#)

Qlik Sense ハブでの QlikView ドキュメントへのリンクの公開

QlikView Management Console を使用して、Qlik Sense ハブで QlikView ドキュメントへのリンクを共有できます。QlikView ドキュメントを表示するには、ドキュメントが共有された特定のユーザーと同じ資格情報を使用して Qlik Sense ハブにログインします。[QlikView ドキュメント] でドキュメントへのリンクを選択して、QlikViewAccessPoint を新しいウィンドウで開きます。Qlik Sense の QlikView ドキュメントを表示する場合、変更は保存できません。



QlikView ドキュメントは、小型デバイス向けのモバイル表示では閲覧できません。

次の手順を実行します。

1. **Documents** タブをクリックします。
Source Document ページが開きます。



公開できるのは、ソース ドキュメントだけです。

2. QDS マシンインスタンスを展開して、共有するドキュメントを見つけます。
3.  をクリックして、新しいタスクを作成します。
4. **Distribute** タブで  をクリックして受信者を追加します。
5. **Named User** ユーザー タイプを選択します。
6.  をクリックして、ユーザーを追加します。



特定のユーザーは、QlikView および Qlik Sense の **[Active Directory]** ユーザーグループの一部でなければなりません。

7. **Document Information** タブで  をクリックして属性を追加します。
8. **Name** 項目に *ShowInSenseHub*、**Value** 項目に *true* と入力します。
9. **[Apply]** をクリックします。
タスクが起動し、Qlik Sense ハブの QlikView ドキュメントへのリンクが追加されます。

4 ダウンロードと印刷

シートとビジュアライゼーションをダウンロードし、印刷することで、Qlik Sense システム外の人々とインサイトを共有できます。例えば、サプライヤーと連携して、自身のデータに基づいて配送を決定できます。

シートとビジュアライゼーションをPDFs および画像としてダウンロードできます。

Qlik NPrinting は Qlik Sense に接続して、さまざまな出力形式でレポートを生成できます。例えば、再注文が必要な医薬品を一覧表示する日次 Excel レポートを作成できます。詳細については、[次を参照してください](#) [Qlik NPrinting について](#)。

4.1 ビジュアライゼーションからのデータのダウンロード

ビジュアライゼーションからデータをダウンロードし、.xlsx ファイルとして保存できます。

Excel エクスポートファイルの行と列の数の制限については、「[ExportData メソッド](#)」を参照してください。

次の手順を実行します。

1. データのダウンロード元のビジュアライゼーションを右クリックします。
2. ... としてダウンロードとデータを選択します。
3. リンクをクリックして、データファイルをダウンロードします。
4. ファイルを開きます (あるいはそのまま保存します)。



軸が複数あるフィルターパネルでは、すべての軸または単一の軸を選択できます。



データをエクスポートするときにテーブル内に空の列名があると、破損データエラーが発生します。このエラーを防ぐために列には必ず名前を付けます。

テーブルからのデータのダウンロード

[データエクスポート設定] ダイアログで、スタイルや行の合計など、拡張されたテーブル書式をエクスポートに適用するように選択できます。拡張されたテーブル書式は、ピボットテーブル エクスポートには適用できません。

このエクスポートはブラウザによって実行されるため、特に大規模なデータセットの場合、完了するまでに時間がかかる場合があります。

スタイル指定は、いくつかの例外を除いてデータに適用されます。

- 拡張されたテーブル書式を使用して Excel にダウンロードすると、最大 2,097,152 個のセルを持つテーブルになります。
- 拡張されたテーブル書式を使用した Excel へのダウンロードは、API 経由ではサポートされていません。
- テーブルセルの画像は含まれていません。

- テーブルセルのミニチャートは含まれていません。
- テーブルセルのインジケータは含まれていません。
- 次の数値書式モードはサポートされていません。
 - 設定される
 - 期間
 - カスタム
- ロケールがサポートされていない場合があります。例えば、Excel はローカル PC で定義された区切り文字を使用し、これらを上書きすることはできません。
- 列に特定の配置が設定されている場合、タイトルはダウンロードされた Excel エクスポートファイルでこれを継承します。
- 書式設定なしで qText と qNum の両方を持つデュアル項目は、数値としてエクスポートされます。
- Qlik Sense と Excel の開始日は異なります。
- 右から左 (RTL) のテキストはダウンロードに含まれていません。
- セルの塗りつぶしの色の不透明度はダウンロードに含まれていません。
- カスタムテーマ内の CSS クラスを介して定義した色は、ダウンロードに含まれません。

4.2 シートのダウンロード

Qlik Sense では、PDF ファイルとしてシート全体をダウンロードできます。

PDF としてダウンロードされるシートは、選択した用紙サイズと方向を超えることはありません。シートが PDF ページに収まらない場合、サイズが変更されます。シートが大きすぎて 1 枚の PDF ページにはつきりと表示できない場合、拡張シートとカスタムサイズのシートは低品質の PDF 出力となる可能性があります。

タッチスクリーンデバイスを使用すると、ダウンロードのプロセスが異なって見えます。

アスペクト比について

アスペクト比には次の 2 つのオプションがあります：

現在のサイズを保持

- 選択した PDF ページ形式と方向に合わせて、シート全体が拡大または縮小されます。
- チャートの比率は、ブラウザ ウィンドウに表示されるものと同じままです。これは、ビジュアライゼーションがトリミングされる可能性があることを意味します。
- シートはページ上で右揃えになります。
- 解像度は、ブラウザのウィンドウサイズに影響されます。選択したページ形式よりも大きいブラウザ ウィンドウから印刷された PDF は、印刷されるピクセル数が元のピクセル数より少ないため、ざらざらして見えることがあります。

ページに合わせる

- 選択した PDF ページ形式と方向に合わせて、シート全体が拡大または縮小されます。
- チャートの比率がページ全体に変更されます。縦横比は適宜変更されます。ページ全体に表示されるようにするために、チャートの周囲のスペースが大きくなる場合があります。
- シートはページ上で右揃えになります。

シートのダウンロード

次の手順を実行します。

1. ダウンロードしたいシートを開きます。
2. ツールバー(☰)でナビゲーションボタンをクリックし、[シートをPDFとしてダウンロード]を選択します。
[PDF設定]ダイアログが表示されます。
3. [用紙サイズ]ドロップダウンメニューを使用して、ページの寸法を選択します。
4. [解像度(ドット/インチ)]の下の[+]または[-]を使用して、解像度を適宜調整します。
正確な値を入力することもできます。最小値は72 DPI、最大値は300 DPIです。
5. [縦]または[横]を選択して、[印刷の向き]を選択します。
6. [アスペクト比オプション]下で次を選択できます:
 - 現在のサイズを保持
 - ページに合わせる
7. [エクスポート]をクリックし、画像の作成を開始します。

制限事項

- ピボットテーブルは非展開形式でダウンロードされます。一部拡大または全体表示は維持されません。
- サードパーティの拡張、フィルターパネル、およびアクションボタンは、空白の画像としてダウンロードされません。
- ビジュアライゼーションエクステンション(カスタムオブジェクト)は、PDFとしてダウンロードできません。それらは画像としてダウンロードできます。
- ダイナミックビューオブジェクトはサポートされていません
- ブラウザにPDFビューアプラグインがインストールされていない場合、[ダウンロード]ダイアログにプレビューは表示されません。
- カスタムテーマが適用されているアプリからシートをダウンロードした場合、テーマはビジュアライゼーションにのみ適用されます。背景色などのシートのスタイル設定は、ダウンロードされたPDFには適用されません。
- シートが大きすぎて1枚のPDFページにはっきりと表示できない場合、拡張シートとカスタムサイズのシートは低品質のPDF出力となる可能性があります。
- アプリでカスタムフォントを使用する場合、Qlik Senseからの出力でそのフォントを使用するために必要なライセンスを持っていることが前提となります。フォントがライセンスされていることを確認するには、アプリのコンテンツのスタイリングにQlik Senseで利用可能な複数のオープンソースフォントを使用してください。
デフォルトのQlik Senseテーマで利用できないフォントに必要なライセンスを持っている場合は、カスタムテーマにフォントを追加する方法について、[カスタムフォントでテーマを作成する](#)をご覧ください。
- アプリのコンテンツで選択したフォントにサポートされていない文字が使用されている場合、これらの文字はサポートされているフォントで出力に表示されます。カスタムフォントが使用されている場合は、異なる動作が見られるかもしれません。
- アプリでカスタムテーマを使用してフォントの使用を定義した場合(テーマに直接フォントファイルを追加するなど)、エクスポートされたアプリのコンテンツでレンダリングされるフォントは、アプリで使用したフォントとは異なる場合があります。

4.3 ビジュアライゼーションのダウンロード

ビジュアライゼーションは画像または PDF ファイルとしてダウンロードできます。

デスクトップデバイスからのビジュアライゼーションのダウンロード

画像としてダウンロード

次の手順を実行します。

1. ビジュアライゼーションの右上にある **...** をクリックするか、ビジュアライゼーションを右クリックします。
2. オプションメニューで、**[...としてダウンロード]** > **[画像]** を選択します。
ダイアログ **[画像設定]** が表示されます。
3. **[現在]** オプションを保持するか、**[カスタム]** オプションを使用して変更します。
 - **[現在]** を選択すると、元のチャートの幅と高さ、画面の解像度が dpi で表示されます。**[ファイルタイプ]** ドロップダウンメニューを使用して、.png や .jpeg から出力形式を選択できます。
 - **[カスタム]** をクリックすると、エクスポートした画像の寸法と解像度をカスタマイズできます。新たな画像の幅や高さを設定するには、**[+]** または **[-]** をクリックして幅や高さを調整します。正確な値を入力することもできます。最小値は 8 ピクセル、最大値は 2,000 ピクセルです。新たな画像の解像度を設定するには、**[解像度 (ドット/インチ)]** の両端にある **[+]** または **[-]** をクリックして、解像度を調整します。正確な値を入力することもできます。最小値は 72 dpi、最大値は 300 dpi です。
4. **[エクスポート]** をクリックし、画像の作成を開始します。

ベストプラクティス

ビジュアライゼーションを画像にダウンロードする場合に役立つヒントをいくつか紹介します。

- エクスポートできる画像の最大サイズは縦 2,000 x 横 2,000 ピクセルです。これより大きい画像をエクスポートする場合は、**[カスタム]** でサイズを縮小する必要があります。
- アスペクト比を維持するには、それに応じて **[幅 (ピクセル)]** と **[高さ (ピクセル)]** を変更する必要があります。
- 画像の解像度を上げるには、同じスケールで幅と高さの値を増やして画像のサイズを維持する必要があります。

PDF としてダウンロード

次の手順を実行します。

1. メニューで、**[...としてダウンロード]** および **[PDF]** を選択します。
[PDF設定] ダイアログが表示されます。
2. 関連のドロップダウンメニューをスクロールし、選択した値をクリックして、**[用紙サイズ]** を選択します。
3. **[+]** または **[-]** をクリックすることにより、**[解像度 (ドット/インチ)]** を増減できます。正確な値を入力することもできます。最小値は 72 dpi、最大値は 300 dpi です。
4. **[縦]** または **[横]** ボタンを選択して **[方向]** を指定します。

5. [縦横比のオプション] で、次のように選択できます。
 - [現在のサイズを保持] では、ビジュアライゼーションはサイズ変更なしに PDF に挿入されます。PDF がビジュアライゼーションより小さい場合はトリミングされます。
 - [縦横比を変更してページに合わせる] では、ビジュアライゼーションの高さおよび幅がページ全体に広がるように変更されます。縦横比は適宜変更されます。
6. [エクスポート] をクリックし、画像の作成を開始します。



ビジュアライゼーションを用紙にコピーするには、PDF ファイルを印刷します。

モバイル デバイスからのビジュアライゼーションのダウンロード

ビジュアライゼーションをモバイル デバイスからダウンロードすることもできます。



Android デバイスでは、ビジュアライゼーションのダウンロードが新しいタブで開始されます。サーバーに信頼できる証明書がない場合は、ダウンロードのプロンプトではなく、セキュリティ警告が表示されます。モバイルデバイスからエクスポートする際、PDF へのエクスポートが既定のオプションです。

PDF としてダウンロード

モバイル デバイスからダウンロードする際、PDF がデフォルトのオプションです。

次の手順を実行します。

1. ダウンロードするビジュアライゼーションをタップし、倍率を変更します。
2. をクリックして、[エクスポート] を選択します。
[ファイルのタイプを選択] ドロップダウンメニューで、既定のオプション [PDF] をそのまま使用します。
3. 関連するドロップダウンメニューをスクロールして [用紙サイズ] を選択し、選択した種類をクリックします。
4. [縦] または [横] を選択して、[印刷の向き] を選択します。
5. [エクスポート] を選択して、PDF の作成を開始します。
6. PDF をダウンロードするには、リンク[[ここをクリックして PDF ファイルをダウンロード](#)] をクリックします。

画像としてダウンロード

次の手順を実行します。

1. ダウンロードするビジュアライゼーションをタップし、倍率を変更します。
2. をクリックして、[エクスポート] を選択します。
3. [ファイルのタイプを選択] ドロップダウンを開き、[PNG] または [JPEG] をクリックして、目的の画像形式を選択します。
4. [エクスポート] をクリックし、画像の作成を開始します。
5. 画像をダウンロードするには、リンク[[ここをクリックして画像 ファイルをダウンロード](#)] をクリックします。

制限事項

- ビジュアライゼーションは表示されている部分のみダウンロードされます。例えば、スクロールバーのあるテーブルをダウンロードする場合、テーブル全体が取得されるわけではありません。スクロールバーが表示されている画像および指定するウィンドウ領域のみが取得されます。
- 次のタイプのオブジェクトはダウンロードできません。
 - フィルターパネル
 - シートタイトル
- ビジュアライゼーション拡張 (カスタム オブジェクト) およびインストールのセキュリティルールがダウンロードを許可するよう設定されている場合、ビジュアライゼーション拡張をダウンロードできます。
- アプリでカスタム フォントを使用する場合、Qlik Sense からの出力でそのフォントを使用するために必要なライセンスを持っていることが前提となります。フォントがライセンスされていることを確認するには、アプリのコンテンツのスタイリングに Qlik Sense で利用可能な複数のオープンソース フォントを使用してください。
デフォルトのQlik Senseテーマで利用できないフォントに必要なライセンスを持っている場合は、カスタムテーマにフォントを追加する方法について、[カスタム フォントでテーマを作成する](#)をご覧ください。
- アプリでカスタム テーマを使用してフォントの使用を定義した場合 (テーマに直接フォントファイルを追加するなど)、エクスポートされたアプリのコンテンツでレンダリングされるフォントは、アプリで使用したフォントとは異なる場合があります。
- アプリのコンテンツで選択したフォントにサポートされていない文字が使用されている場合、これらの文字はサポートされているフォントで出力に表示されます。カスタムフォントが使用されている場合は、異なる動作が見られるかもしれません。

4.4 ストーリーのダウンロード

ストーリーは PowerPoint プレゼンテーションまたは PDF ファイルとしてダウンロードできます。ストーリーのエクスポートでは、ストーリー作成に使用される選択ステートと一緒にエクスポートされます。ストーリーの再生中に適用された選択はすべて無視されます。



この機能はモバイルデバイスでは使用できません。

PowerPoint のプレゼンテーションとしてダウンロード

データストーリーテリング機能を使用して、ストーリーから PowerPoint プレゼンテーションを作成できます。

次の手順を実行します。

1. ダウンロードするストーリーを開きます。
2. **⋮** をクリックし、[ストーリーを PowerPoint としてダウンロード] を選択します。
[PowerPoint 設定] ダイアログが表示されます。
3. 既定の [スライドサイズ] と [解像度 (ドット/インチ)] を変更する場合は、2 つのドロップダウン リストから選択してください。
4. ダイアログの最後の行に設定の結果が表示されます。

5. [エクスポート] をクリックします。
PowerPoint プレゼンテーションの準備ができると、ダイアログにリンクが表示されます。
6. リンクをクリックします。
プレゼンテーションはブラウザの既定のダウンロード場所にダウンロードされます。
7. [キャンセル] をクリックしてダイアログを閉じます。

事前に構成された PowerPoint スライドサイズ

既定では、エクスポートされたプレゼンテーションのスライドサイズは、960 by 540 ピクセルの縦横比 9:16 のワイドスクリーン版で、解像度は 220 dpi (ドット/インチ) です。

PowerPoint スライドに 3 つの事前設定されたスライドサイズと縦横比を指定できます。また、カスタム オプションも選択できます。次に事前構成されたスライドサイズを示します。

事前に構成された PowerPoint スライドサイズ

事前に構成されたスライドサイズ	縦横比	幅 (ピクセル)	高さ (ピクセル)
[標準]	4:3	960	720
[ワイドスクリーン] (既定)	16:9	960	540
[ワイドスクリーン]	16:10	960	600

220 および 150、96 dpi という 3 つの解像度を利用できます。

スライドの縦と横をカスタム設定する

エクスポートされたスライドの寸法は、[PowerPoint 設定] ダイアログの [スライドサイズ] ドロップダウン リストから [カスタム] を選択することで、事前設定された値以外の値にも設定できます。この操作を行うと、ダイアログが変化し、スライドの縦と横をピクセル単位で設定できるようになります。

次の手順を実行します。

- [+] または [-] を使用してスライドの縦/横の値を調整します。また、項目に直接、指定する値を入力することもできます。



アスペクト比を維持するには、[横 (ピクセル)] と [縦 (ピクセル)] を適切に調整してください。

PDF としてダウンロード

データストーリーテリング機能を使用して、ストーリーを PDF としてダウンロードできます。

次の手順を実行します。

1. ダウンロードするストーリーを開きます。
2. *** をクリックし、[ストーリーを PDF としてダウンロード] を選択します。
[PDF 設定] ダイアログが表示されます。
3. 既定の [用紙サイズ] を変更する場合は、2 つのドロップダウン メニューから選択してください。

4. 画像の新たな解像度を設定するには、**[解像度 (ドット/インチ)]** の **[+]** または **[-]** をクリックして解像度を調整します。正確な値を入力することもできます。最小値は 72 dpi、最大値は 300 dpi です。
5. **[縦]** または **[横]** をクリックして **[印刷の向き]** を選択します。
6. **[縦横比のオプション]** では以下から選択できます。
 - **[現在のサイズを保持]** では、ビジュアライゼーションはサイズ変更なしに PDF に挿入されます。PDF がビジュアライゼーションより小さい場合はトリミングされます。
 - **[ページに合わせる]** では、ビジュアライゼーションの高さおよび幅がページ全体に広がるように変更されます。縦横比は適宜変更されます。
7. ダイアログの最後の行に設定の結果が表示されます。
8. **[エクスポート]** をクリックします。PDF プレゼンテーションの準備ができると、ダイアログにリンクが表示されます。
9. PDF をダウンロードするには、**[ここをクリックして PDF ファイルをダウンロード]** をクリックします。プレゼンテーションはブラウザの既定のダウンロード場所にダウンロードされます。
10. **[キャンセル]** をクリックしてダイアログを閉じます。

制限事項

ストーリーをエクスポートする際の制限事項は以下のとおりです。

- アプリでカスタム フォントを使用する場合、Qlik Sense からの出力でそのフォントを使用するために必要なライセンスを持っていることが前提となります。フォントがライセンスされていることを確認するには、アプリのコンテンツのスタイリングに Qlik Sense で利用可能な複数のオープンソース フォントを使用してください。デフォルトの Qlik Sense テーマで利用できないフォントに必要なライセンスを持っている場合は、カスタム テーマにフォントを追加する方法について、[カスタム フォントでテーマを作成する](#)をご覧ください。
- 選択したフォントでサポートされていない文字が埋め込みアプリコンテンツ (ストーリー テキスト要素ではない) で使用されている場合、これらの文字は、サポートされているフォントを使用して、PowerPoint または PDF ファイル内にレンダリングされます。カスタム フォントを使用すると、異なる動作が発生する可能性があります。
- アプリでカスタム テーマを使用してフォントの使用を定義した場合 (テーマに直接 フォントファイルを追加するなど)、エクスポートされたアプリのコンテンツでレンダリングされるフォントは、アプリで使用したフォントとは異なる場合があります。
- シートのダウンロードに適用される制限は、埋め込みシートを含むストーリーをダウンロードする場合にも適用されます。シートのダウンロードの制限については、「[シートのダウンロード \(page 55\)](#)」を参照してください。

4.5 トラブルシューティング - ダウンロード

このセクションでは、Qlik Sense でデータやストーリーをエクスポートするときに発生する可能性のある問題について説明します。

匿名ユーザーがアプリデータをダウンロードできない

例えば、ビジュアライゼーションでは image/pdf/data としてダウンロードするなど、匿名ユーザーがデータをダウンロードできるようにする必要があります。

考えられる原因

データをダウンロードする権限を匿名ユーザーに付与するためのセキュリティルールはありません。

提案されたアクション

匿名ユーザーがデータをダウンロードできるようにするには、セキュリティルール ExportAppData のコピーを作成し、そのコピーを変更して、resource.HasPrivilege("read") のみを [条件] に含めるようにします。詳しくは「[Qlik Sense にインストールされているセキュリティルール](#)」を参照してください。

ビジュアライゼーションを画像としてダウンロードできません

ビジュアライゼーションを画像としてダウンロードしようとしたのですが、ダウンロードに失敗しました。

考えられる原因

ダウンロードしようとしているビジュアライゼーションのサイズが大きすぎます。ダウンロードできる画像の最大サイズは縦 2,000 x 横 2,000 ピクセルです。

提案されたアクション

ダウンロードする際は、[画像の設定] ダイアログで、[カスタム] ボタンを選択して画像のサイズを縦 2,000 x 横 2,000 ピクセルに設定します。

PDF ファイルに空白文字が含まれる

日本語、韓国語、簡体字中国語または繁体字中国語のラベルの付いたストーリーをダウンロードして作成された PDF ファイルに、空白文字が含まれます。

考えられる原因

これらの言語が含まれるストーリーをダウンロードするには、適切なフォントを使用する必要があります。そうでない場合は、既定の Times New Roman フォントが使用されます。Times New Roman は、日本語、韓国語、簡体字中国語または繁体字中国語をサポートしていません。

これは、ストーリーのタイトル オブジェクトまたはパラグラフ オブジェクト内のテキストにのみ適用されます。埋め込みのビジュアライゼーションには適用されません。

データロード エディタでアプリケーションの CollationLocale 設定に対して ja、ja-JP、ko、ko-KR、zh-CN、zh-TW が宣言されていると、ダウンロード機能では次のリストの順序で、最初に使用可能なフォントを使用して PDF が生成されます。

使用可能なフォント

CollationLocale 言語	フォント スタック
簡体字中国語	SimSun、SimHei、FangSong
繁体字中国語	PMingLiU、MingLiU、Microsoft JhengHei、Microsoft JhengHei UI
日本語	Meiryo、Meiryo UI、Yu Gothic、Yu Gothic UI、MS UI Gothic
韓国語	Malgun Gothic、BatangChe

上記のリストでフォントが見つからない場合は、中国語、韓国語、または日本語を必要とするストーリーの文字が出力されません。ただの空白スペースになります。

提案されたアクション

使用している言語の PDF をダウンロードするためのフォントの1つをインストールします。フォントを選択することはできません。システムでは、テーブル内のフォントが所定の順序でのみ使用されるためです。

CollationLocale で設定した言語と同じ言語のラベルを使用していることを確認してください。これらの言語が異なる場合は、共通の文字のみが作成したレポートで正しく表示されます。

アラビア語やヘブライ語など、右から左へ表記する言語は、現在ラベルでサポートされていません。

シートをダウンロードしたが、データビューテーブルがビジュアライゼーションに戻った

シート全体をダウンロードしましたが、テーブルデータに変更したすべてのビジュアライゼーションが元のビジュアライゼーションに戻りました。

考えられる原因

ビジュアライゼーションのデータビューをダウンロードできません。

提案されたアクション

データとしてダウンロードのオプションを使用して、各ビジュアライゼーションのデータをダウンロードします。